新女界

第四卷第十一號目次

○不幸なる婦人（一）……安井哲子

△泥人形（一二）……野口精子

○學校より家庭に

△兒童觀察の必要（一三）……高師教授 佐々木吉三郎

△御相談數件（一七）……安井哲子

△高等女學校より（二一）……女子大學學監 麻生正藏

○日本畫各流派のお話（二四）……文學士 澤村專太郎

△朝鮮の女學生（三八）……渡瀬常吉

○婦人の姿勢美と體育（四〇）……木内愛子

△面白い女學校（四三）……しげ子

○祖母樣（四五）……大塚楠男

○トルストイの私信（五一）……森田松榮子

○濁つた血（五三）……紫嵐

○おもかげ（五六）……久野恭子

△「遠藤千浪さん」を讀みて（六二）……井上伊之助

○隨感（六五）……

△敵を愛する心△あさましき心△天國の面影（原の人）△努力（八重子）

△女子の風紀問題に就て（記者）

△時事其折々（六九）……記者

△編者より（七二）……

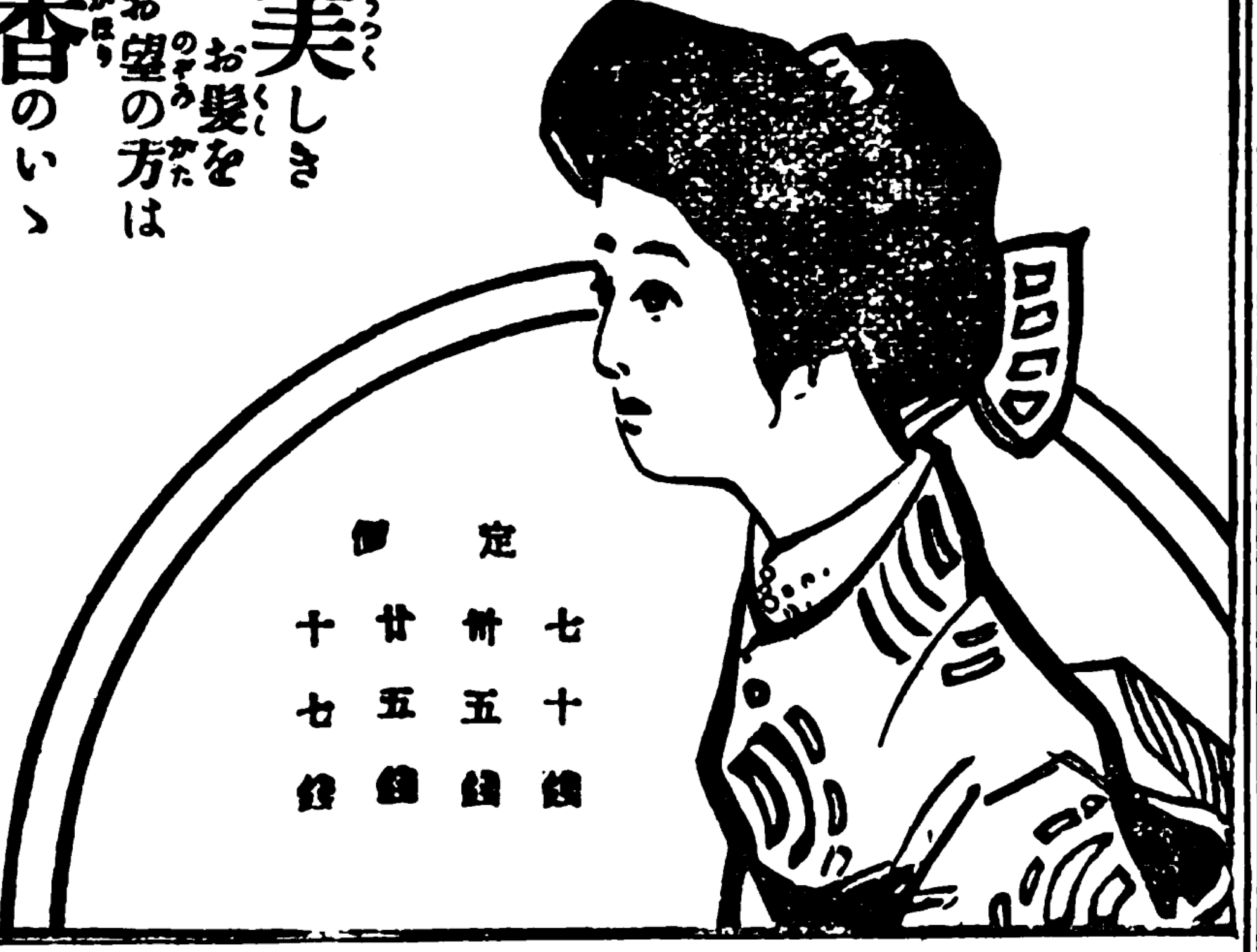
○恩寵の力（五）……海老名彈正

東京新人社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千代田香油

美しきお髪をお望の方は香のいゝ千代田をお召し遊ばせさつぱりとして奥床かしく人様にまで快感を與へます



定價 七十錢 卅五錢 廿五錢 十七錢

スアソン石鹸輸入元
山岸三之助
東京……馬喰町
大坂……豐町

牧羊者カード

●縦三寸二分 横二寸三分
●十種取合五十枚入壹包二十五錢郵税二錢

全國日曜學校大會紀念として發賣せる日曜學校用新式カードにして幼年科及高等科の男女生徒達の意向に適する様彩色體裁等に充分なる注意を加へ五十枚共各異なりたる聖句を刷込みたる高尚優美の品なれば御注文の上續々御試用あらん事を冀ふ

東京小石川區武島町二十五
發賣元 便宜堂商店
振替貯金東京六三三〇番

特約販賣店
○東京銀座教文館●東京尾張町警醒社書店●東京有樂町基督教書類會社●東京神田小川町普光社○大坂北久寶寺福音社書店

便宜堂商店目錄 御入用の方へ二錢切手又往復はがきにて申越あれば進呈致候

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見よ!!!理想的新雜誌を

十一月一日發行(第二號)の充實せる内容

國民倶樂部

國民道德の權威とは何乎……法學博士 浮田和民

國民精神改造論……慶應義塾教授 向軍治

我輩は此の元氣で奮闘す……伯爵 大隈重信

自ら幸福と信ずる我が生活……代議士 島田三郎

我輩の實行する簡易生活……法學博士農學博士 新渡戸稻造

最も價値ある生涯とは何を言ふか……早稻田大學教授 安部磯雄

大經綸を以つて奮闘する我が生活……松村介石

紳士としての修養をする米國大學生……理學博士 谷津直彥

愉快に暮す我が一日

△性格を曲げない我が生活……法學博士 浮田和民

△運動と勉强の我が一日……早稻田大學教授 安部磯雄

△勞働者としての我が生活……慶應義塾教授 向軍治

△豫定は無いが規律のある生活……代議士 田川太吉郎

△座ることが一日の仕事……木下尚江

△多忙に處する我が一日……救世軍大佐補 山室軍平

△決死の覺悟で送る我が一日……某實業家

△自然的生活が最も幸福……實業家 太田黑重五郎

△餘裕のある生活を希望す……女子高師教授 安井哲子

△何時も愉快な私の一生活……山脇高女校長 山脇房子

△我が樂天的生活の一日……女子商業學監 嘉悅孝子

『婦人之友』主筆羽仁もと子夫妻に就て

元「婦人之友」社員 都河生

元「婦人之友」社員 大竹生

元「婦人之友」社員 石川生

一冊金十錢 六冊金六十五錢 十二冊金一圓廿錢

東京神田表猿樂町 振替二三一六四番 國民出版社

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

大正元年十一月一日發行　第四卷第拾壹號

不幸なる婦人

安井哲子

世の中に不幸な人は數多くあります。不具者や病人や貧乏人等殆數へ盡す事が出來ませんけれども、他人の虐待を受けて自之れを免るゝことの出來ぬ者程世に憐れむべき者はありますまい。私は此頃獄中の某婦人から突然手紙をもらひました。此婦人は曾て僅に一度面會したのみで、其詳しい履歴は存じませんけれども、夫のあらゆる虐待を受けた後可愛い幼兒を置いて離別せられ、自活の道を立てんとして東西に奔走する中に、所持金も殘り少くなり、而も夫の陰險なる妨害で職に就く事も出來ず、悲觀の極終に夫を傷けて入獄するに至つた者であります。今から思へば私を賴つて來た時が既に此恐るべき大罪を犯して居たのでありますが、初對面の事でもあり、又私を驚かさん事を恐れて此事だけは私に秘して居りました。然るに、私に面會後數日にして終に囚れの身となりまして煩悶やる方なく、終に其身の現狀を獄中から私に告げて來たのであります。僅に一度の面會でありましたけれども、

私は此婦人から何等不快なる印象を受けませんでしたのみならず、其子を思ふ眞情に至つては深く私の同情を刺戟しまして、何卒して此婦人をかゝる不幸なる境遇より救ひ出し度き者と苦心した程でありました。かゝる人に對しては此世は實に殘酷であります。數年間夫の冷酷なる待遇を忍びに忍んで、其愛子のために貧苦と戰つた婦人をかくまでに虐待して悲觀の極終に國法を犯すに至らしめたのは誰の罪でありませうか。然るに此あはれなる婦人は囚はれ、横暴なる虐待者は社會から何等の制裁をも受けません。彼には此世が實に暗黑でありませう。彼は賴るべき者が一つもないと歎いて居り、私への手紙は之れが一生の別れであると書いてありました。何たる悲慘な心狀でありませうか。

凡此世に最憎むべき者は、無力な者、抵抗力なき者を侮蔑し虐待する事であります。虎獅子のやうな野獸を怖れて、馬や牛のやうな從順な動物を虐待したり、自衞の力を有たぬ幼兒や老人を冷酷に取扱つたり、或は又獨立の生活をなす力のない婦人を虐待したりする程卑劣な行爲はありますまい。吾等に乳を與へ肉を與へ、吾等のために重荷を負ふところの溫良な牛馬を酷使して人類の偉大を示し、幸福なるべき兒童に不必要な苦痛を與へて、幼き心に苦き經驗を嘗めしむるのを成人の權威と心得、自活力なき從順な婦人を精神的に苦しめて男子の權力を振ふが如きは實に惡むべき者であります。

女子には體質上からも、又其精神上からも、男子の如くに此世の困難と惡戰苦鬪するには適して居りません、故に彼等は比較的平和なる家庭を護つて、生活の戰に身心を疲勞して歸り來る男子を慰藉し、家庭の暖な空氣に幸福なる休息を與へて、再社會に奮鬪する新なる元氣を養はしむるのであります。かかる天職を自覺して忠實に其家を守り、其子を育て、夫の心を慰むる事を唯一の樂しみとして暮して居るやさしい女子には、夫の愛が唯一の生命でありませう。然るに其愛が他に移り、暴虐無道の取扱を受け

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て尚且平然と之れを忍ぶといふ事は、普通の婦人には到底爲し能はぬところであります。其堪ふべからざるを堪へ、忍び難きを忍ぶ結果は、神經質の婦人をして終に精神病たらしめ、之れがために終に恐るべき大罪を犯さしむるのであります。何たる悲慘な事でありませう。

　弱き者は强き者に服從するのは自然でありますけれども、强き者は之れに對して弱き者を保護する義務があります。其卓越したる心力と體力とを濫用して弱者を壓迫し、之れに何等の保護をも與へざる者は、弱者に對して服從を要求する權利がありません。女子の敎育が進んで來ると種々理窟をいふものが出來、時には誤つた自覺をするといつて、婦人研究は婦人自身よりも却つて男子の間に盛に行はれ、吾々女子をして自身を誤らず能く其天性と天職とを覺つて、女子らしく美くしい生活をなさしめんとの親切なる指導は吾々の屢受くるところであります。而して吾々は常に感謝して此敎訓に從ひ、益女子としての美德を發揮せんと苦心する者でありますけれども社會の一部に於て吾々の同性たる女子が以上の如き虐待に苦悶する有樣を見聞致します時には、殆其苦痛に堪へられぬ感がするのであります。而もかゝる不幸なる女子を慰藉し救助すべき機關は悲しいかな吾國の社會には充分に備つて居りません。殊に個人としての女子は社會に輕視せらるゝ傾がありますから、かゝる悲慘なる境遇にある人々に對して、滿足に力を籍すことは甚困難であります。故に私は廓淸會や救世軍に關係を有せらるゝ有力な男子方や、社會道德の改善に意を注がるゝ男子方の保護を得て、吾々女子が何とかして直接又は間接に是等不幸なる同性の苦痛を輕からしめたいと願ふのであります。

　翻つてかゝる不幸を招いた遠因を研究して見ます時には、一に不注意な結婚に歸せざるを得ません。而してかゝる輕卒なる結婚を敢てする者は、多くは自活力なき婦人で、結婚せざれば生活する事の出來ぬために、愼重なる態度を充分取らぬやうになつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のでありませう。勿論自活力ある婦人でも種々の誘惑に陷つて、不幸なる結婚をなす人々もないではありませんけれども、前者は殊に同情すべき價が多くあります。其故に農でも商でも手藝でも萬一の場合に於ては、自ら生活し得るといふ自信を有する事は自然婦人をして結婚といふ事を眞面目に且愼重に考へさせるのに必要で、かゝる者は恐くは却つて一生不幸の經驗に出逢ふことがなくてすみませう。

又之れと同時に男子の結婚に對する眞面目な覺悟を要するのであります。殊に種々の特權を有する男子は常に無力者を自由になし得るといふ危險が伴つて居りますから、女子よりも一層道德的の制裁を感ずるやうにありたいのであります。

家庭の不和より起る不幸は其責任者たる夫婦の上にのみ止りません。之れがために罪なき兒童が幾多の苦痛を經驗して、輝ける未來の希望を失ひ、幼き時から既に社會の暗黑な方面に生活するやうになるのであります。かゝる悲しむべき事が他にありませうか、獨り兒童自身の不幸のみならず、社會は之れがために善良なる者を失ひて不良なる國民を得ますから、其損失は實に非常な者であります。要するに弱者虐待は非文明の行爲であります。腕力を振ふ時代は既に過ぎ去つて、力と愛とを兼備し、剛勇と慈悲とを共有する男子を以て最男らしき男子と考ふるやうになりました。而して壓制は却つて反抗を來たし、保護は期せずして服從を得るのであります。知に於て意に於て、又力に於て優等の位置を占むる男子が、之れを利用して親切に女子を保護する時には、家庭に於ても社會に於ても自權力と尊敬とを得、愉快なる生活をなす事が出來ませう。而も之れは單に自己の利益であるのみならず、社會の經營者たる男子の職分の一であると信ずるのであります。希くば世の有德なる男子の同情を籍つて、社會の暗黑面を開拓し、此裡に悲しむ婦人を福なる生活に導きたい者であります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恩寵の力

海老名彈正

△パウロの大膽なる宣言

當時賢哲の淵叢ともいふべき羅馬府に送つた書簡の中にパウロは大膽にも世間の人々は、君子小人の差別なく、俗人僧侶の隔てなく、異邦人ユダヤ人の別ちなく、皆盡く罪人であると斷定した。世界の人々は悉く罪人なりと斷定して、然る後彼は如何にしてこの罪より遁れ得べきやとの一大問題を提出したまづその解決をユダヤ人に迫つたが、當時ユダヤ人は人種上宗教上道德上他國人と比して遙に秀でて居つた、罪を遁るべき道は彼等の特有であると思つた。誠にユダヤ人は自ら神の選民と號する如く、彼等には神の律法があつた。その他尊き神殿もあり、禮拜の儀式もあり、又祖先の功德もあつた。故に彼等は自ら他國人に優つて罪を遁るべき道を有してゐるつもりてあつた。けれどもパウロは忽ちこれを否認して、神殿も戒律も儀式も功德も罪を遁るゝに何らの力なしと斷じた。眞に驚くべき斷定と云はねばならぬ、その次にパウロは同一問題を羅馬希臘の賢哲に發して、これも罪を遁るゝ道を有せずと斷言した。彼等の知識は確に一頭も二頭も俗人を拔いて居るけれども、その感情と意志との狀態は俗流と何ら異る處なし、故に智に於て誇るも行ひに於ては五十歩百歩のみ。彼等は人を測る量を以て自らを測り、人を罪する處の法を以て己を罪してゐる。彼等いひのがるべき道なし。遂にパウロは神の前に義とせらるゝもの一人もなし、神の民と云ふユダヤ人の戒律も修養を尊とせる賢哲の學識も消極的に一の力を有

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

するのみ、即ち罪を免るゝ道にはあらずして罪を明に認むる光明となるのである。故に彼等の前には死が橫はつて居るばかりで、救はない。して見れば人生の終局は死である、我々の生けるは死の爲に外ならぬ。これは當時賢哲の一大問題であつた。さらば如何にして死すべきかは彼等の硏究を要した所である。彼等の中には自殺したものも少なくなかつた。實に人生の苦痛を免かるゝ最も安全なる港は死であるとしたものもあつた。罪惡觀から見ても無常觀から見ても人生の最後は死である。しかして最も恐るべき死の根本は罪惡である。如何に厭世的ではあるまいか。悲觀的ではあるまいか。有神論も無神論も歸する處は一に死の問題であつた。

△罪惡問題の解決

基督の福音は然らず、生くる道であつて、死する法でない。パウロはキリストの福音が凡て信ずるものを救ふ神の力たるを誇とした。彼は生の深い意義を自覺して居つた。初代基督教徒も之を自覺し、最も有難いものは生命であると自覺し、彼等は生命の神を崇拜した。生を欲するは人生の本能である。日本にても神は死を忌み給ふとなし凡て死に緣あるものは普通に神を拜禮することが出來なかつた。これは人生の本能である。基督の福音は此本能を全うするものである。パウロはこの福音を帝國の大都に宣傳する事を耻としなかつた。然れども死は易く生は難い。外界の無常はいつも死を示してゐる、天地は一面墓場である、葬歌は一日絶ゆる事がない。この悲痛は何とも云へない。墨染の衣を着ずしては居られぬ。しかしながらこれが果して宇宙の眞相であらうか。然らば生を欲するは迷である。人生は死を超越すべく出來て居る。死は斷じて宇宙の眞相でない。宇宙の根底はどうしても生である。さらば死の世界は如何にして之を超越すべきか。自然界の死は人の本領を傷け得ざるが故に、さまで恐るゝに足らずと雖も、罪惡は人の眞面目を侵す。從つて最も恐るべ

きは罪惡である。故に死の問題は一轉して罪惡問題となる。罪惡は既に人生を壓する。之を撲滅する法果して如何。罪惡は從來の修養や學問や研究では撲滅し得られない。故に神は新なる道を開いて之を撲滅し給ふのであるが、そは信の一念に存するとはパウロの主張である。こゝにパウロ福音の深遠な秘義が存するは、精神狀態の最も深い健なるものである。本領中の本領である。吾人一身を處するに自信を要す、社會を組織するにも根底は信である。親子の親みも信により、夫婦の和も信に依る、信は最も肝要なる精神力である。信の內容は極めて深い又極めて多い。パウロは「愛によりてはたらく信のみ益あり」と云つたが、信の內容に愛がなければ極めて貧弱である。人の心の働は重に意志と感情とである、智が明になつても深くなる事は出來ぬ、只罪惡の感を益すばかりである。意志も乾燥無味なものでは善き結果を見る事は出來ぬ。そこに感情の暖いものが缺けてはならぬ。この二つは本來離すことが出來ぬ。こゝより何事も湧き出づるのである。外界の力に依るあらず、自分の意志を以てなすが故に、自由にして束縛はない。パウロはこゝの根本を堅く握りしめた。さらば何を信ずると云ふのであるか。神を信ずるは異邦の賢哲もユダヤ人も等しく旨とする處である。神それ丈では不十分である。神は宇宙萬有に全智を以て臨み給ふ。これを信ずる人は驚嘆の情を發する又神は正義公道の人格的靈能を以て宇宙を支配し給ふ。これを信ずる人は神を畏敬するやうになる。驚嘆も善い、畏敬もまた尊い。しかしパウロは夫れ丈では滿足が出來なかつた、更に進んで深い要求があつた。それは十字架上の基督の死の眞意義を明察する事である。

△基督の十字架の意義

基督の十字架はパウロに取つて誠に解釋し難い出來事であつた。かれはこゝに一種深遠なる愛の意義を覺えぬでもなかつたが、かくも大恥辱を受けた人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

を王として仰ぐ事は出來なかつた、彼には大苦痛であつた。しかるに當時の基督教徒はこの大罪人をメシア也とあがめて措かなかつた。パウロは彼等の口よりこの言を絶たしめんとして、彼等を拷問したけれども、彼等は屈しない、泰然自若として彼の拷問に服した。しかもその泰然たるは氷の如く巌の如くなるにあらずして、眼に涙をたゝへて居つた。而してその涙は怨の涙でもなく、怒の涙でもない、拷問する人の心中の苦痛に同情し、その罪を赦されん爲に祈る涙であつた。彼等の向上心は盛にして顔容天使の如く輝いたとある。拷問してゐたパウロはそれを見て彼我の品位が如何に違ふかを思つた。その人々は最も耻づべき十字架の辱を信じてゐる、その精神狀態は尊く神々しい。之は我も得たいが、その耻辱は負ふに堪へられぬとはパウロの心事であつたが、しかも大苦悶大奮鬪の結果、パウロは遂にその異相に透徹する事が出來た。

基督は深い意義に基き死を善意に解し給ふた。死の見方によれば死の中に一種深遠な意義を見出すことが出來る、母親が我子の不行跡を病み、朝に思ひ夕に憂へ、早くその子が罪を遁れて光明の世に進むべく絶えず祈り、祈り祈つて遂に狂を發し、その爲に死に赴いた誠に悲慘の話がある。この死は深い意義を有して居る。母の死に感動して子は悔い改め、正しき道に歸れば、母の死はやがて子の自覺の基、生きる故となつた。十字架上の基督の死も確に深い意義がある。ユダヤ人の理想、神の子その人が十字架に死せるは深い意義が無ければならぬ。パウロは茲に痛切の感を發揮し基督の死は自分の爲に賜はつたものと思ひ、キリストの十字架に神の哀情を認めて信じた。神の熱誠はパウロを捕つて動さぬ。この熱誠の力は彼が靈能の凡てを喚起するに餘りあつた。彼を苦しめた罪惡は神が無條件に之を赦し給ふ所となつた。戒律のオーソリテーも彼を束縛する力を失ふた。彼は萬事を破壞し去つて新天地を造營する力を發揮し得た。こゝに彼は靈の自由を得た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△パウロの心情と乃木將軍

此の如く基督の死に依つてパウロは神の熱誠に徹底し、無限の恩寵に浴するを得た。この信は終に彼が永遠の生命となつた。パウロの精神狀態を説明するに當つて、乃木大將の死生に參考すべきことがある。乃木大將は眞面目の人であつた。彼は勇敢なる心の一方に暖い武士の涙を含んでゐた。抑日本の武士の性質はかくの如きものであつた。薩摩琵琶を聞くに、勇壯と悲哀との二方面がある。劍を揮つて起ち袂をしぼつて泣く、誠に美はしい對照である。乃木大將はこの武士の標本である。旅順の攻擊に難戰苦鬪すると數閱月幾多の將校兵士を失うた、眞に甚深の苦痛に充ちたのであらう、堪へ難い悲哀に襲はれたのであらう。その眞面目なる良心は彼を慰め得ずして、反つて彼を苦めたのであらう。大將の二令息は勇ましく討死せられた。これぞ幾分か故國の父老に對して申譯が出來る心地もしたらうが、その悲痛は遂に吾々の察し得る所ではならかつたらう。傳ふる所によれば、他の將校士卒が戰死したときは、如何して死んだか、何處をやられたかと、一々細まかく尋ねられたさうであるが、令息の死を聞かれては「あゝさうか」と云はれたきり、無言であつたといふ。こゝに無限の苦痛がある。當時余は講壇上より叫んだ、勇將の聞えある乃木司令官は軍營の夜半、獨り外套を纏つて月に對する時、定めていふべからざる悲愁の感に打たるゝだらうと、涙を吞んで堪ふる程苦痛のものはない。この苦痛を嘗めてこそ初めて他に同情する事が出來る。武士の涙は深い暖いものである。果して大將は凱旋の後戰死者の父なる農夫に對して痛切な詫を述べられたと云ふではないか。學習院に長として勤務中飄然去つて青山一兵卒の墓前に立つて泣いてゐたといふ話もある。傳へ聞く大將は一日　至尊陛下に拜謁して「臣は陛下の忠良なる多くの將校兵卒を喪うた。この上は只割腹してこの罪を謝するのみ」と申された。すると　陛下にはまか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り去らんとする大將を呼び歸して「思ひ止れよ、朕が生きて居る間かゝる事はすな」と宣ふたといふ。大將は陛下のこの暖い恩寵に由つて七年間その生命を保ち得たのである。この恩寵は大將の心裡奧深く徹底して大將の生命となつたのである。パウロが神の知遇に感じ恩寵に生きたのも此種の精神狀態である。パウロは基督の死に依つて神の恩寵を自覺し、無限の力を得た。我々の祈願せる通り、若し　先帝の壽命が長く保たれたならば、乃木大將は決して死ななかつたのであらう。　陛下の恩寵の中に餘生を保ちて健げに勤務したのであらう。彼は　陛下の恩寵に由つて萬難に勝ち得たのであらう。

△基督教と武士道の相違

天の神は永久無限の靈能である。基督に依り永久の神の中に生きたるパウロは、遂に死する處が無つた。彼は無限に神の恩寵を味つて居る。パウロは單に神の大業を見て驚嘆してゐるのではない、又神の正義公道を畏敬してゐるのでは無い。神の恩寵知遇に生きたのである。彼はその心中に言外の偉大を自覺した。玆にクリスチャンと武士との相違がある。

彼はいふ、「われら彼に由り又信仰によりて今居る處の恩寵に居る事を得、かつ神の榮を望みて欣喜をなす」と。神の榮を望むは卽神の如く神々しくなる事を希望するのである。彼は此希望に生きて喜ぶのみならず、患難にも欣喜をなした、そは患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ、練達は希望を生じ、希望は恥を來らせざるを知る。こは我儕に賜ふ處の聖靈に由て神の愛われらの心に灌漑げば也」とパウロは喜んで居る。パウロの中には最早死はない、唯生あるのみ。死は大悲觀の極である、絕望である。しかるに神の恩寵に生きるものは永遠に希望の人たるを得、故に死を超越することが出來る。何となれば患難は忍耐を生じ、練達を生じ、希望を得て神の如く全き人格を贏ち得る希望を生ずるからである。この強い勇健な樂觀の精神があつて、吾々は死に勝ち得

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。此希望の生活には喜悦がある、元氣がある、この大なる無盡の元氣を以て死を超越する、是れがクリスチャンの生活である長壽法である。何んとなればこの新しい元氣に由つて罪惡に打ち勝ち、更に英氣を振ひ起して、人格の偉大を實現し得るのであるこの偉大なる人格、神の意志に生きる人格は、無常界を超越し、罪惡界を超越し、靈界に於てその大なる價値を確立することが出來る。この人格は全宇宙とも易え難き價値あるものである。故に永遠を期して消滅することがない。

人生の四惑

人生普通の生活は苦樂相半ばす。幼年より青年となり、夫となり妻となり、父となり母となる。其間苦痛もあれど悅樂も亦少からず。されど觀じ來れば皆之れ一場の夢のみ。これ其の一。

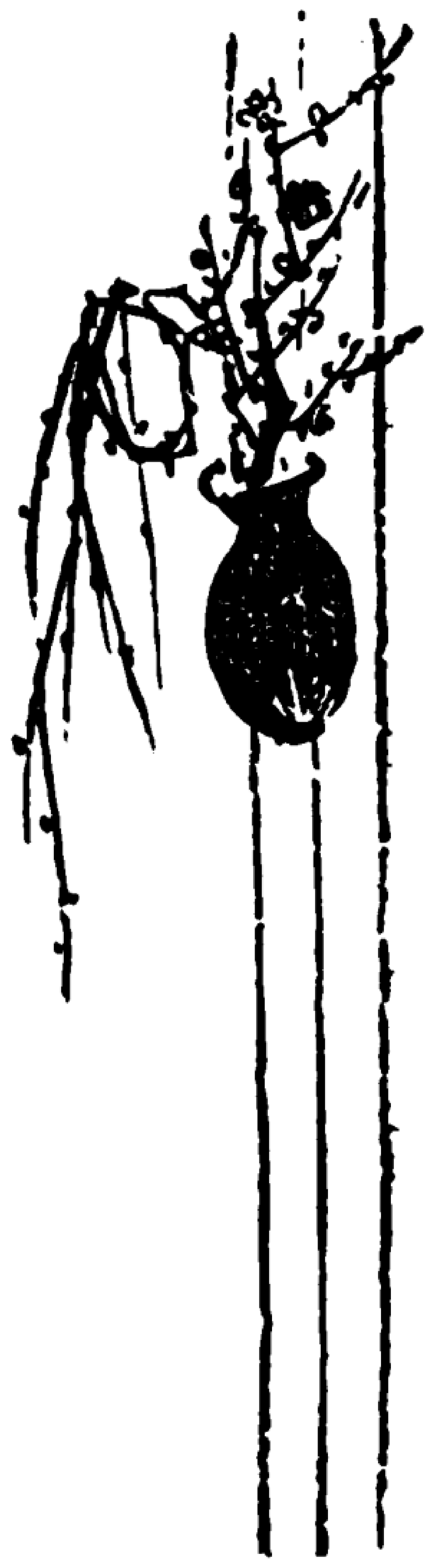
迅雷、飛電皆之れ神業と見しは遠き昔なり、今や之を捕へて信を通じ、翼なくして大空を飛ぶ。されど、宇宙の神秘は科學の力も獨これを如何ともする能はず。之れ其の二。

人格の修養は倫理道德を以てすれば足る齊家も治國も亦然りと。されど我願ふ所の善はなさず、却つて願はざる惡をなすとは、彼等最終の嘆息也。之其三。

恐るべし人生を夢と觀じ、科學の醉ひにさめ、倫理道德の戒律に苦しむの輩、所詮天地人生は不可解なり、懷疑なりと悟るに至ることや。これ其の四。

ナザレのイエス一度は是等の惑を生活し給へり。されど彼はよく之を破りて勝利の生活を營み給ひぬ。彼は何を以てか之を征服し給へる。云ふまでもなく、そは淸く美しき愛也。アバ父とよぶ神の子の愛也。これによりて彼は母と、弟と故鄕の人の背ける時にも、決然として都に上り給ひ、これによりて彼は學者の前に「されど我爾等に告げん」と宣ひ給ひ、これよりてゲッセマネの園に「されど我心のまゝをなさんとにあらず、聖旨にまかせ給へ」と祈り給ひぬ。こゝに復活の生活はある也。（海老名牧師說敎の一節）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



泥人形

野口せい子

歌すててあまた日を經つ自らを泥人形とおもひさげしむ

生命なき泥の人形はけふもまた孜々と動けり機械に似たり

普請場の瓦壁つち鉋屑中にまじりてこすもすの咲く

かく亂れかくさわがしく此秋を徒にすごすが泣かまほしかり

釘をうつ壁つちをねる此秋は子等のあそびもこの外になし

束ね髪三日、四日經ればうらがなし押しよせられし蔓草の如

よその子を路のほとりに見る如き物語をば人の來てする

將末のあるを知れなどいふことにあやうげもなき年輩となる

木曾越えて西の京へ君は行くねたみか戀か狂ほしき秋

二十餘年思出餅やに歌なきを君のうらめる嵐山の秋

（學校より家庭に）

兒童觀察の必要

高師教授　佐々木吉三郎

△寧ろ罪は親にあり

假りに此處に世の父母と兒童とが法廷に起ち、私をしてその裁判官たらしめたならば、世の父母は必ず敗訴に終るであらうと思はれるのは、今の家庭教育の狀態であります。一寸錢湯に行つても、殆ど熱湯と云つてもよい位の湯に「ナニ神田ッ子だ、」などと云つて、きゆつと抱きしめて無理にしづませる。子供は堪らないから泣くと、「なんだこの弱蟲」と云つて、容易に出さうともせず、その湯でクリクリと顏を擦つてやつて居るなどはよく見受くる所であるが、實に慘酷極る事で、兒童の纖弱な皮膚と、大人の厚いそれと同一視して居るので、けしからぬ話である。また雨天などで外で遊ばれぬ折、兒童は父親の居間に來て騷ぐと「やかましい、彼方に行け」と云はれる。今度は茶の間に行くと、母親が「そんなに騷ぐと上氣てしまうぢやないか、そつちにお行き」と追ひ出す。然し子供部屋も用意して置かないで、騷しいから彼方へ行け、そつちへ出ろと云はれても行き處がないのである。活動性の強い兒童が、家の內で騷ぐのは當然である。斯くの如く、現今の家庭敎育には兒童を觀察して、その持前にピッタリ合ふ樣に敎育する事が足らずして徒らに兒童のみを責めんとする傾きのあるのは、私は兒童の爲めに淚を揮

つて義憤を洩らさゝるを得ない次第であります。もし兒童に向つて何になるのかと尋ぬると、陸軍大將海軍大將、兼内閣總理大臣」と何んでも一番偉くなる積りで居る、「これこれを知つて居るか」と尋ぬると、我れ勝ちに手を擧げて「先生知つて居ます、知つて居ます」といふ。元來兒童は何んでも一番偉くなりたい、一番何かを知つて居りたい」といふ性質があるので、何を好んで級中の劣等生になり、社會での不良少年になりたいと思ふて居るであらうか。もし不幸にして劣等な子供、不良な少年であつたならば、左樣にその子供を生んだ親こそ、兒童の前に頭を下げてその罪を詫び、人一倍の注意を拂つてこれを教養すべきであると思ふ。

△兒童の程度を知る事

兒童觀察と云ふても、系統的にまた精密に數學的學理的に研究せよといふのではなく、普通の親として、兒童の動作に注意し、書や製作物を見たり、また會話をして居る間にも、自然と子供の性質を觀察する事が出來る。然し教育は單に兒童の觀察が出來たといふ丈けではまだその任務を盡しては居らぬ。教師たるものが技能を以て之れを綜合し、利用して、一つの生きたるものに作らなければならぬ。例へば話しするにも兒童の使ふ程度の言葉を用ひなければならぬ。「太郎は困つてどうした」と云つたとて、困るといふ事は、既に兒童には分りはしない。「太郎はオイ〱と泣いて云々」と云へば、彼れ等によく理解せしめて、同情を惹く事が出來る。それ故或意味で教育者は藝術的の才能が必要である。即ち手際が必要である。

△自然に叶ふ訓練

そこで一つ兒童を自動的に躾けて見やうとする。兒童をよく見て居ると、何んでも自分でやる性質があり、自分で出來る事を非常に喜ぶので、この躾けは決して兒童の性質に反した事ではないと云ふ事が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

分る。「坊や一寸彼れを取つておくれ」と云へば、子供は喜んでそれを運んで來る。「坊やはもう一人で牛乳を飲む事が出來るね」と、飲みよい樣にしてコップと匕を渡せば、人手をかけずに飲む事が出來る。その仕事が出來たら「オヽよく出來た」と賞める。そして次第に兒童の發達の階梯に添ふて仕事を增して行く。かくすれば一家の勞力に於て、時間に於てどれ程助かるか分らぬ。然るに一寸よい家の子となると、人に手をかけるのを名譽の樣に思つて居る。日本のやうな貧乏家庭では、家族各自が充分働らく習慣をつけなくてはならぬ。現今の日本の奥さんの忙しさは格別である。國が自治制であるが、家庭はなほ專制制度である。元日早々主人は學校の禮拜に行かうといふのに、「ソレ已れのネクタイは何處にいつた、今日出るといふのは分り切つて居る事ぢやあないか」「それこのボタンが取れて居る」と小言を云へば、息子は「母さん僕の靴下は」と云つて來る、女は「私のリボンが見えないわ」と泣きつく。そこに下女が「奥樣お雜煮をどういたしませう」と云ふ有樣である。「さあ機嫌よくお雜煮を祝ひませう」と妻が云へば、「もう時間がない、雜煮なんぞ食はないでもよい」などゝ云つてプリ〳〵怒つて出てゆく。そして學校に行つては、講壇の上に起つて、「夫婦相和し」なんどゝ教育勅語を奉讀する。こんなお手本でどうして教育が出來やうか、兒童に自治を教へやうと思ふならば、家庭全體の者が、皆自治制度を取らなければならない。然する時は訓練卽ち躾けと相俟つて、自然に兒童の習慣を作る事が出來る。この筆法で正直、勤勉、間食を癈する事等、凡てに應用する事が出來る。

△賞罰のしかた

最後に賞罰といふ事を少しく述べて見たい。賞罰は家庭では最も大切な事で、之れによりて善い事は度々繰り返へさしめ、惡い事は止めさせる樣にする。教育も畢竟よい性質は度々繰り返へさしめて品性と

し、惡い事は止めさせるといふ事に過ぎず。人情として叱られるより賞められる方が嬉しいには違ひない、子供の心も大人と同じく、人に賞められて決して惡い氣持ちはしない。それ故一旦よい事をした時には、愉快の念を加へて、またその事を繰り返へさうと思はしめ、惡い事をしたら、何等かの苦痛を加へて、もうすまいといふ念を與へ、善い事をしたならば、賞める事を怠らない樣にしなくてはならぬ。然るに下等社會の人々は、賞める事はしないで、却つて兒童を叱る事のみ務めて居る。その結果は決してよろしくなく、遂にはその不快の念が性をなして終ひ、自暴自棄の人間を作る事になる。されば敎育上には成る可くよい方を見出して、之れを賞むれば兒童は自分の短所は成る可く知らさない樣に、自分で治して行くものである。下女を躾ける時もさうである。叱つて斗り居てよくなるものではない。却つてよい事の方を餘計に認めてやる事が大切である。また批評敎授等する時でも、先づ善い事を擧げて、殘念だけれどもかく／＼の所はかうあつて欲しかつたと惡い方の批評をすれば、よく耳に入るが、それが反對になると、往々反感を起させる。罰の方は成る可く同情ある仕方をしなくてはならぬ。然し時あつてか橫着で惡い事をしたと見た時には霹靂一聲、擧國一致の態度で、徹底する迄之れを罰しなくてはならぬ。お父さんが叱るのを母親が庇ふたり、母親の罰するのをお婆さんが勞つたりする樣では、決して敎育は行はるゝものではない。その時は皆同じ態度に出でゝ、兒童が充分惡かつたと諭る迄、罰しなくてはならぬ。かへす／＼も兒童に就て無理のない觀察をする事が賞罰を行ふ上にも大切であるし、之れが實に敎育の第一步であると申したい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御相談數件

安井哲子

(一)先御愛子のために適當な學校を選擇なさい。

近來は子供を良い幼稚園や小學校に入れるといふ事は中々困難でありますから、御兩親方の苦心されるのは止を得ぬ事であります。併時としますと其學校が吾愛子の教育を托するに適して居るから選ぶといふのでなく、其他に種々の意味を含んで居る場合が見えます。嘗て聞きました話に御近所の何某樣の孃樣は御校にお世話になつて居られますから、私の娘も此處に入れないと幅がきゝませんといつて入學を願つた親がありましたそうですが、學校選擇にまでかくの如き虛榮的精神が加はつて居ては、到底其子供を眞面目に勉强させる事は出來ません。近來女學校の生徒が何々學校の卒業生といふ資格を得たいために、其學校に入學して熱心に勉强もせず、唯卒業さへすればよいといふ樣な氣風を生じて來たといふ噂もありますが、之れは其親が學校を選擇する時の精神にも大關係があります。

(二)御兩親の身分や位置や財產などを、其御愛子に利用なさるのはよろしくありません。

英吉利のイートンやラッグベーのやうなパブリック、スクールでは新入生が入舍する時に、古參の學生が「君は誰ですか」と問うてみて、若し私は何爵の長男です」といふやうな答をすると、友達に虐められる例であるそうであります。學生として教を受くる場合には誰も皆同樣でなければ眞の教育は出來ません。若心ない母親が自分の子供は他の子供よりも身分が高いから、先生の特別の注意がある筈であるとか、他の子供も自分の子供を大切に取扱はねばならぬ筈であるといふやうな考を有つて居ますと、自分の子供が泣かされたといつては學校に訴へ、暗

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に先生の注意が足らず、友達の親切が缺けて居るといふやうに不足をいひたくなるのであります。然るに子供は子供同士の制裁を受けて團體的生活の意味を自然に習つて行くのでありますから、我儘をしたり意地の惡い事をして友達に泣かされるといふ事は、其子供には實に良い制裁で之れに依つて自分の我儘を改めるやうになるのであります。それを母親が知らずして其子を庇ひますと、其

子供は終に友達を失ふやうになりませう。

其故に子供を吾信じた學校に托する場合には、親の身分財産等を利用して、其子が特別の取扱ひを受くるやうにと望まれぬのがよいと思ます。父親にはか丶る例は稀でありますけれども、虚榮心に驅られやすい母親には往々か丶る傾を示す事があります。曾て某學校の生徒募集の折に、入學を志願しに來たある女中は「奥樣が申されました

が、旦那様はもう直に博士におなり遊すので御座いますから」と申して其子供を是非入學させたいとの意を示したのでありました。かゝる事は之れを聞いて居る子供によくないので、親の身分とか位置とかを利用するのはかゝる方面でなく、是等に對して價値ある子たれと奬勵するのに用ひらるゝのでありませう。

(三)子供の御世話は成るべく母親自身にして頂きたい。

如何に多くの召使をつかふ家でも、大切な子供の世話は出來るだけ母親自身になさる事を切望致します。如何に忠實な女中でも子供に對する眞情は其母親に及ばぬのみか、衣食住の世話が到底母親程に行届くものではありません。況して年の若い且冷淡な召使でもあれば、母親の見ぬ所では子供が如何なる無責任の取扱を受くるかわかりません。之れに依つて子供は不知不識陰日向の行爲を見習ふやうになるのであります。母親自身にお世話をなさる子供は衣服でもお辨當でもよく行届いた所があり、女中任せの子供には不行屆の點がいろ／＼の者の上に現はれて居ります。

併時としては母親が多忙で自身に子供の世話の出來ぬお方もありませう。此場合に於ては性質の善良な教育のある女中を雇つて、自分の監督の下に責任を以て子供の世話をさせたいのであります。私は英國で家庭教師が子供の世話をするのを見た事がありますが、父母は先能吾子を指導し得るやうな資格ある者を選び、之れに母親と同様服從させる習慣を與へ、假令兩親が傍に居ります場合でも、家庭教師は遠慮なく其子供に命令もし、又小言もいひ、兩親は之れに對して何等嘴を容れぬのであります。然るに吾國では召使は主人同様其子供を尊敬致ますから、子供ながらに自分の權力を自覺し、彼等のいふ事には少しも從はぬのみか、心なき母親は其我儘を見免しますので、子供は益召使を輕蔑するやうになるのであります。かゝる有様では到底眞面目に子供を教

育する事が出來ぬのであります。私の知つて居る女兒はお迎に行く爺をいつも困らせました。いろ〳〵の無理難題を拵へて爺の言ふ事に從はず、終には大聲を擧げて泣き叫びますので、止を得ずいろ〳〵御機嫌を取つて「いゝ物を買つてあげませう」とか「面白い物を見せてあげませう」とかいひますので、子供は益我儘となつて成人の手に餘るやうになつて行くのであります。其故に私は假令他の用事は外の人に托しても、吾子の世話は成るべく母親自身にせられんことを切望するのであります。

(四)母親は子供が學校で何を爲して居るかを充分に知らねばならぬと思ひます。

母親は幼稚園や小學校に通ふ時代の子供には、教育上最直接の關係を有する者でありますから、吾子が幼稚園や小學校で何をして居るかを觀もし、知りもせねばならぬと思ひます。さもなくば家庭が學校に同情し協心同力して其子供の教育に當る事は出來ません。學校の事情に通せぬ親が、學校や先生の事を子供の前で無責任に批評するなどは其子の教育上に有害であるのみならず、先生が不知に其兩親の惡い習慣でも批評して、親に對する子供の信用を失はしむる事も實に心苦しい次第であります、曾て私が某國の女學校に奉職致して居りました時には、其國の風俗上、女生徒に對して貞操といふ事を話すことが困難でありました。卽若かゝる話を致します時には間接に其父や母を攻擊し、又其生徒自身の身分上に自不快の感を結び付ける恐があつたからであります、其故に父母は先其子のために、自分と主義の同じやうな學校を選び、大體に於て教育の精神に矛盾がなく、其上日々の仕事に就て先生と充分に打合はせをなされば、其子供の教育上大なる効果がありませう。

以上述べましたのは先大體に就ての御相談であります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

高等女學校より

日本女子大學校附屬高等女學校 學監 麻生正藏

△善き習慣を準備して置かれたい

高等女學校時代の娘達の家庭に向つて、私共が日頃望んで居りますことは、第一に娘達が學校に入學する迄に先づ學校教育を有効に受け入れられる準備をして置いて戴きたい。準備といふのは何も學科の下稽古をさせるといふ意味ではない、最も大切な準備は善良なる習慣を養つて置くことゞあります。女子が高等女學校に入る迄の時代は、人間の生涯の基礎の定まる時でありますから、此の間に善良なる習慣を植えつけて置くと、高等女學校で受ける教育に著しい効果が現はれて來るのであります。年少時代に作つた善良なる習慣、これほど人間にとつて有益なる寶はないのであります、智識や、裁縫其の他の技藝や、若くは嫁入の持參物などに替へられない寶に一生涯の良き親友であります。若し惡しき習慣を作つて置くと、これは一生を害する敵である、惡魔である。婦人の運命を支配するものは、年少時代の習慣である、何となれば習慣が集つて品性を作り品性が重なつて運命が定まるのであります。

△第一に父母の摸範

善良なる習慣を作るものは書物ではない、又父母の命令教訓ばかりで作られるものではない、第一に父母の示す模範がそれである。教師、友人、若くは先輩の示す模範も勿論その一つであるが、家庭にあつては父母、殊に母親が娘の手本となる人物であることが最も有力なのである。假令父なる人があまり

尊ぶに足らない人物であつても、母が立派な精神と確信とを有する人であれば、子供が立派な人間になる例をよく見るのであります。模範は幼い時ほど感化力が多いのであります。何故といふに模範は實際眼に見得るものである、具體的である、故に年少子女にとつて生々した觀念理想を與へる、故に注意を集注することが出來るのである、子供の精神を奪つてしまふのである。勿論子供の注意は所動注意であつて、模範そのものに惹きつけられるのである。そこで知らず、識らず良い眞似をする樣に仕込まれて行くのであります。卽ち强い感化はこれであります。

△第二に暗示が習慣を作る

第二に暗示を與ふることが大切であります。暗示と云ふは、子供が未だ善惡を熟慮して判斷することが出來ない時分は、親が命令の態或は忠告の態になつて現はれる所の暗示を與へるのである。卽ち父母の命令思想、觀念を直に信仰して、實行に現はさせるのであります。これは子供の注意が父母から與へらるゝ觀念、思想に集注してしまふと、それが行爲に現はれるのである、故に父母を子供が信じ、尊ばなければ効がない。父母の云ふことを眞か、僞かと子供が考へるやうでは暗示になりませぬ。斯うして行爲を度々重ねると習慣になるのであります。

子供が大きくなつて、十二才以後、十四五才になり、高等女學校に進むやうになれば、もう自分に善惡を判斷し、所決するやうにさせなければならぬ。更らに進んで自分の理想とする所を實行するやうに習慣を養つて行くのであります。子供の時代には今云つたやうに、模範を示し、暗示を與へるのでありますが、十二頃からは話をして聞かせる必要が起つてくる、いろ／＼なことを說き聞かせるに當つて、親が自ら良き習慣を持つて居れば、その話が力强く又話すと同時に實行を以て模範を示すことが出來るのであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

△學校と家庭と相談すること

家庭で良き習慣を養つて置かずに學校に入ると、學校では今迄の惡い習慣を破つて、良き習慣を打ち建てなければならないから、やゝともすると、惡い習慣に後歸りして効果がなか〳〵擧らない。良き習慣をもつて居れば學校に入つてます〳〵仕上げられるのであります。娘の運命は殆んど十二才頃までに父母が定めてしまふやうなものである。

娘が既に高等女學校に入學してからは家庭と、學校當局者とは親密な關係を以て、萬事互に相談して娘の缺點は打明け、双方で矯正に骨を折らなければならぬ。時には娘の足りない所を庇護するやうな仕方に出る家庭もあるが、それでは敎育の方針に錯誤を生じて、敎育の効果が極めて薄くなるのである。而して學校はいづれ相當の理想をもつて敎育を行つて居るのであるから、入學の時に其の學校の敎育方針、方法を調べ、よく其の精神をのみこんで、そこに道理があると思つたならば、常に家庭からも助けて、よい成績を擧ぐるやうに同情をもつて欲しいものであります。

斯樣な必要上家庭と學校との聯絡をとるために、時々母親達は學校に參觀して欲しいのである。一向學校の樣子もわからず、父母招待會などにも出て來られない家庭では事情がわからない爲めに父母が學校を誤解して批評を與へることがある。そういふ時は子供は迷を生ずるから、學校に預けて却つて不結果を來す場合もある。學校と家庭とは協力し、責任を分擔して子女の敎育に眞の効果が現はるゝやうに努めなければならないと信ずるのであります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本畫各流派のお話

文學士　澤村專太郎

氏は美術學校、高等女子師範に美學を講じ、傍ら國華の編輯に從事せらる。この一篇は東京府下池袋に成蹊實務學校を經營せらる同校々長中村春二氏が、婦人の趣味乏しく、話柄に貧しきが爲め、交際上全く口を噤み居る事尠なからざるを遺憾とし、特に一般婦人の爲め、同氏を聘してこの講話を乞ひたるもの。氏の校閲を經て此處に掲ぐ。

△掛幅と屛風と卷物

畫のお話をすると直ぐ思ひ出すのは掛物と云ふ事である。我が國の掛物の起元は餘程古い事であるけれども、それが普通の家に行渡つたのは餘り古い事ではない。そはいつ頃かといふに四、五百年前、即ち足利時代から以後の事である。それ迄は佛畫が掛物として壁などに掛けられたので、勿論それは今日吾々の家に見るやうな裝置のものではなかつたのである。掛物と共に屛風と云ふものを思ひ出すが、これは既に千二三百年以前からある。然らばこれは日本で發明せられたものかといふにさうでは無く支那から來たのである。即ちかの三韓からいろ〳〵の貢を奉つたその中に、畫や繡のある屛風があつた。勿論三韓から來た屛風ではないけれどもこれ等の古い屛風の實物は今に大和の正倉院に殘つて居る。それは凡そ今より千百年よりも以前のものであるが、これに由つて見ると、その頃の屛風は今日のやうに紙の蝶鉸があるのではなく、一扇一扇のものに穴を明け、多くは紫色などに染めたる革紐で括つてある。後日本に於て紙の蝶鉸のあるもの即ち軟屛風と呼ぶ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ものが發明せられた。是れは今日普通の家で見る所のもので、かの古く支那より渡來したるものは之れに對して硬屛風と名づけられた。日本製の軟屛風は後に至つて支那に渡つて珍重せられたので、軟屛風と云ふのは彼地で呼ばれた名稱である。次は襖、衝立、障子の事であるが、是れに畫が書かるゝに至つた事も隨分古い。宮殿即ち御所の衝立、障子などに畫を書くに至つたのは嵯峨帝の弘仁以後の事となつてゐる。繪に對する關係から云へば屛風でも衝立でも同樣である。

因果經の一部

其他壁畫、張附なども屛風衝立の類と同樣のものと考へてよい。なほ他に卷物がある。繪卷物に屬するものの現存してゐるもので最も古いものは、京の上品蓮臺寺を始め諸所に散在してゐる過去現在因果經である。是れは經のある上方にその意味の書を繪いてあるのである。序ながら申しておくが、この過去現在因果經に二種ある、今申したのは古い方のものであるか、他は鎌倉時代になりて、住吉法橋慶忍といふ者が其子聖衆丸と共に前記の者を模寫して繪いたもので新因果經と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

名づけられて居る。扨書の畫かれた色の方より云へば日本畫は大體三種に分つ事が出來る。第一墨畫—水墨畫とも云ふ、第二淡彩畫、第三着色畫である。また畫の繪かれてある地質によりて、紙本、絹本、絖本等の稱がある。

△土佐派及び春日派

日本畫中最も古くより續けるは土佐派にして從つて大和畫の中心になれるは土佐派である。この派はいつ頃から起りどういふ變遷をして來たかといふに先づ此派は藤原氏の中期に於ては既に立派に成立してゐたものである。土佐といふ言葉の起元を尋ねると、承安の頃藤原經隆と云ふ人が出てゐるが、此人が普通此派の祖と稱せられるのである。而して此人は土佐權守に任ぜられたから、此土佐と云ふ語をとつて來たものだと云はれてゐる。經隆の父は隆親と云ひ、隆親の父は有名な隆能であるから、土佐派の繪は實際平安朝の初めの頃からあつたのである。春日派と云ふのは隆親の時に春日神社の繪所を承り、春日神社の畫事を引受けたによつて始めて春日派といふ名稱が出來たのである。然らば隆能、隆親の書けるものは今日殘れるかといふに、名古屋の尾州家に三卷東京の益田家に一卷都合四卷の源氏物語の繪卷物が殘つて居る。是は隆能の筆とも隆親の筆とも云はれてゐる。その繪にあらはれた特色は顔が下膨れで、所謂引目鍵鼻の眠むいやうな形相をして居るもので、靜在的人物を得意に書いてゐる。普通春日派と云つてゐるのは此種の畫態である。當時一方にはそれでないものがあつた。是は鳥羽僧正や藤原光長などが畫いてゐたと云はるゝ畫態である。その特色は面貌も引目鍵鼻とは異ひ、其擧動活潑の狀を示し全體に活動の趣がある。是れが土佐派の主系的畫態と稱せられてゐるのである。例へば信貴山緣起、伴大納言畫卷、などはその適例である。とにかく此二た通りの畫風が當初行はれてゐたが、是れが鎌倉時代以後になると次第に混融して、確然たる區別を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

失ふに至つた。土佐畫と云ふものが完成したのは鎌倉時代と云ふべきで此時代には傑作が大に現はれてゐる。寢覺物語、西行物語、粉河寺緣起、病草紙、地獄草子、北野天神。根本緣起、紫式部日記、吉備大臣入唐繪詞、榮華物語等擧げ來れば中々多いのである。この時代の作家で有名なるはかの光長の外に經隆の弟に邦隆がある。其他藤原隆信を始めとして有名なる信實、それからかの慶忍、其子の聖衆丸がある。又吉光があり、圓伊、蓮行、惟久、長隆などがある。次に高階隆兼がある。此人は春日驗記といふ二十卷の繪卷物を書いたが、これ等は土佐、春日兩派の合したるものである。現今帝室の御物となつて傳つて居る。色彩は非常に奇麗で、鎌倉末の國風畫の代表品とも見るべきものである。かく鎌倉末には豐麗絢爛の畫態が大に隆兼に依て發揮せられたが、此傾向は足利時代になりて愈々烈しくなつて來た。足利の東山少し以前に土佐派の英傑光信といふのが出でた。これは土佐派を復興させたと云はるゝが、然しこの派の眞の特色を發揮せるはやはり鎌倉時代で、以後は僅にその形骸の後れるに過ぎない。光信の子光茂の子光吉(實は光茂の門人と云ふ)は戰國時代に堺の港に隱れて居つたが、此土佐派が愈々近世に頭を現はしてくる樣になつたのは、德川の初の頃光起といふ人からである。然し既に光信の頃より單に畫が奇麗になつたといふのみならず、概して支那の北派の畫風が加つて來た。而して非常に堅苦しくなつて來て、昔の樣に自由でなく、石ころの上を車を軋らす樣な感じのある畫となつたのである。光起以後の土佐畫は繪畫と云ふ點からは餘り價値ある物でなくなつて了つた。

この派の特色はその題材が多く古い日本の生活、殊に好んで朝臣の生活或は官女などを畫き、線は凡て曲線的で殊に山を繪く時は、京都附近の所謂蒲團着て寢たる姿や東山といつた風の曲線式にしてその繪の具は頗る濃麗である、殊に得意とする所の人物畫は歌仙などである。是は鎌倉の初頃、似繪即ち肖

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

像畫と關係して發達したものである。似繪の名として知られてゐるのはかの隆信で、その子信實も亦似繪の名手で、此人は殊に歌仙の優れたものを畫いたと云はれてゐる。今日佐竹家にある三十六歌仙の二卷は信實の筆と傳へられてあるが、歌仙畫中最も有名なものである。尙ほ、土佐家の三筆と稱せられるのは、以上の作家中、光長、光信、光起の三人である。

△住吉派

光起より少し以前、土佐派より住吉派といふものが出た。これには事情があつて分れた。元來土佐派に注意しなければならぬのは、土佐家が朝廷の畫事を久しく承つて居つた事であるが、德川の一家は江戸に榮ゆるに及んで、後にお話する狩野家の外に此派からも德川幕府の畫局に仕へる事になり、如慶といふ人が召された。是が住吉派の起元である。此人は廣通と云つた人で、光吉の子であると表面では云ふが、實は光吉の門人である。如慶及びその息具慶はこの派の腕利きで、光起が近き土佐派を狙ひ、大に漢畫にかぶれたのに反して、これ等は寧ろ古い土佐派を狙つた形迹がある。それ故如慶、具慶の作には太だ勝れたのが出でたのである。住吉が中頃から分れて板谷家が出來、それと前後してまた粟田口が出來たが、これ等は如何に分れても大體に於て何等の根本的事變たり得なかつたのである。

前に新因果經を慶忍が書いたと云つたが、この人は住吉の住人とあつて餘は未詳であるが、多分住吉の繪所慶忍と慶恩とは同一人であらうと云ふ說があるが、之れは正しい。とにかく住吉の慶恩の後を如慶につがせる爲めに此住吉と云ふ名稱が出來たのであるけれども　實際は如慶、具慶と慶忍或は慶恩などとは家系上の關係はないのである。

△光琳派

土佐派に親類筋の一派がある。これを光琳派と云

ふ。この派には元祿以前光悦、宗達あり、次で元祿に光琳出でて此派を大成し次で有名なる抱一が之を繼いでゐる。濃厚の彩色を用ひ、土佐派よりも一層大膽のあらはし方をし、凡てが模樣的である。婦人方の御承知の友染はこれより一風變つたものである、が多少似てゐる。凡て輪廓を塗り潰すやり方を沒骨といふが、この沒骨と模樣化が光琳の特色である。多

抱一の傑作「雨後夏草」

く金屏風などに得意に書いてゐる。繪の具の使ひ方は大體土佐派に異はないが、唯大に大膽にやり、大畫面に適應するやうにやつた所が異ふ。抱一は姫路侯酒井忠擧の男で豊かなる畫才を自由に磨いた人である。例へば『雨後夏草』などを書いても巧みに雨に打たれた草の樣子を表はし、その叢に赤と白の花を交へて單調を破り、そこに大膽な流れを配合して、それによつて雨後といふ感じをはらはし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たるなど甚だ意匠が卓抜で、凡手の企て及ぶ所ではない。また凡てが曲線式で、軟らかにふつくりとして居る點は、見る者をして柔かな律動的な感じを起させるのである。

△狩野派

これは足利の東山以後に出たものである。この派の初めの人は正信で此人は後に大炊助と云ひ、足利義政に仕へて近侍となつた。その子が有名な元信でこれを世に古法眼と云ふ。この人の時代に於て狩野派が完成したと云つてもよろしい父の役を承けて義政に仕へ、義澄の代まで仕へてゐた。元信は土佐派の光信の女を娶り、從つてその舅の畫風即ち土佐派をも參酌してゐる。元來狩野派はこの頃移入せられた支那畫の法を學んだのである。支那には北宗、南宗二派の畫風があるが、その北宗が此頃我國に盛に移入せられたので、それを主要なものとし之れに土佐派の或部分を加へたものである。此派は概して沒骨ではない。元信の後に有名なる永徳出で、次で山樂、探幽あり、これを最後として餘は見るに足らぬものである。此派の特色とも云ふべきは、強き墨線を用ゐ。多く墨畫若くば淡彩である。勿論此派の作中には土佐風な極着色の畫もあるけれど、此派の特色は寧しろ着色畫ではなく、直線式なる線を好んで用ひ、澹白な趣を出す點にあるのである。

狩野派に就て心得ふべき事がある。即ち京狩野と只の狩野との二派ある事である。永徳、山樂は秀吉の厄介になつたので、徳川派の天下となるに及んではこれに仕ふるを快しとせず、山樂は男山の八幡宮に入つて居つたが、後出でゝ京に住ひ、その子孫が畫業を襲いだが之を京狩野と云つた。江戸に於ける狩野家は鍛冶橋、木挽町、駿河臺、中橋、濱町の五つに分れた。然しこれ等徒らに家が分れて生活を大

事にする斗りで、技術を重じない處から、藝術は次第に墮落するのみであつた。何事でもさうであるが殊に藝術は研究的精神に充ちた時代、卽ち何者かを作り上げやうとする時期に於て最もよく進展發展するものである。生活上の安全があり、役目大事と考へてゐる頃などには進歩は中止して了ふのである。狩野派の藝術的末路は卽ちそれであつた。

△高僧畫

支那の北宗畫が日本に入つたに就ては雪舟を語らなければならない。鎌倉の末頃より以後足利時代へかけて政府の助けを假らぬ一派の畫家が出でた。當時のハイカラなる禪宗の僧侶が支那に行つて、彼の地の文物を輸入し、また支那よりは多くの僧侶が來朝したが、これ等が皆喜んで墨畫を弄した。是は支那の北宗の中の多く禪宗に關係ある畫態で一に高僧畫とも云はれてゐる是等は固より素人畫であがるそれを稍々專門家らしく研究したのが周文、雪舟である雪舟の作品は多くの水墨、或は淡彩である。線は甚だしくきつくすべて直線式である。又雪舟の得意とする所は破墨の法と云ふもので、東京帝室博物館にある雪舟の破墨山水は太だ有名なものである。狩野派でも探幽などは殊に雪舟に學んだ處が多い。

また他に雪舟自身を受け繼いだといふが、實は雪舟の頽たる雲谷派、長谷川派などあれど、雪舟を墮落させたと云つた風で、特色は強さうの線をわざとらしく使つてゐるもので嫌味のあるものが多い。この雲谷派が變じて、墮落したものは堤派などがある。之れは後に浮世繪的となつて祭禮の行燈の繪などを書いたものである。

△圓山、四條派

次は圓山四條派である。探幽死し、光琳往きし頃から、この派の傑物應擧が現はれて來た。狩野派は云はゞ支那の書法に屈してゐたもので、日本に居り

ながら、支那の風景、人物を模倣して居るに過ぎない。それに飽き足らずして日本の風土そのものを土臺として繪を書かねばならんといふのが、圓山派の起つた所以である。近世の寫生派は圓山派が中心である。

應擧の弟子に蘆雪、源琦、孝敬、楠亭、素絢、文鳴、月僊、徹山、鶴嶺、南岳などがある、これ等を應擧の十哲と云へど、世には蘆雪、徹山、源琦、南岳、素絢最も知られて居る。蘆雪は淀の藩士で、應擧に就て學んだが、自己一派の畫風を繪くので、遂に應擧に破門せられたと云はれてゐる。然し藝術家としては應擧の弟子の中此の人が最も尊い天品を備へて居つた樣に思ふ。源琦は應擧に眞似て居たが、彩色に於ては出藍の譽れがあり、唐美人はその得意とする所であつたが、蘆雪には到底及ばなかつた。素絢は日本美人に巧みに、徹山は孔雀に、南岳は鯉に特に妙技を現はして居つた。當時にありて猿の名人にて知られたる祖仙は、應擧に學ばねど、圓山派に屬する清新な畫を書いた。徹山は其義子である。

圓山派と同時に必ず聯想せらるゝ四條派といふのがある。應擧の風を學んだ人に吳春(月溪ともいふ)といふがあり、この人はまた蕪村にも學んだ。蕪村は俳人として名高く、また繪畫をもよくした人である。そこで蕪村の畫風に應擧を交へて四條派が出來た。圓山派は忠實なる寫生派であるが、四條派は寫生より一步離れて、手を拔いた所に、やさしく、あつさりした面白味のあるのが特色である。吳春の弟に景文あり、また門人に岡本豐彥といふのがあるこの人は殊に風景畫に達者であつた。

△明清畫

此處に明清畫に就てお話しなければならぬ。明清畫には南宗畫、寫生畫の兩派を含んで居る。享保の頃支那の南宗畫が日本に輸入された。南宗は主もに山水を得意とする。文人畫は多くこれに屬し、圓山四條派の起る以前既に日本に入つて來て居つたので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ある。これを始めて持ち込みしは、支那の商人伊孚九で、彼れが長崎に來て傳へたのである。伊孚九は商人であつたが書をよくしたので、邦人が之を學んだのである。この畫風を大に鼓吹したのはかの池大雅であつた。大雅と殆ど同時に蕪村がある。其後相亞いで岡田半江、田能村竹田、谷文晁、渡邊華山、椿椿山等あり其他貫名海屋、山本梅逸、日根對山等がある。大雅より以前には祇園南海柳里恭などがある。これ等が日本に於て南宗畫を普及し發達せしめた。この派の人々は多く山水畫の縦長きものを書くが、此縦に長い爲めに構圖法を研究して上中下、或は前中後の三段に分けてゐる。此分け方が發達すると共に後には他の派、即ち住吉派等にその影響が及んだ作例も殘つてゐる。また種々の點法が用ゐられてゐるが、就中米點は山水の殊に雨上りの調子、空氣に濕れる山を繪く場合にふさはしいものである。皴法と云ひて山の皴を書く法の中では、多く披麻皴解索皴などが用ゐられてゐる。またその彩色は普通は濃い色を使はない。南宗畫の特色は柔かな描線を旨とする事で、北宗的なる直線式とは正反對であつて山の形にても角張つたものを好まず、努めて圓味がかつたものを書いてゐる。

次に明清畫中の寫生畫は享保の頃沈南蘋によつて傳へられた。この人は伊孚九と違つて、本國に於ても有數の畫家であつたので、長崎の代官が態々招聘したので暫らく日本に留つて本國へ歸つて了つた。これによつて明清の寫生派が日本にあらはれた。それに刺戟を受けて日本に一派を作らなければならぬと奮起したのが應擧である。應擧はまだ日本にその頃傳へられたる西洋畫の影響をも多少受けて居る。

沈南蘋の畫風を研究した人に熊斐といふ人があるこれは九州の人であるが、それを江戸に運べるは采紫石である。沈南蘋の支那風の寫生に刺戟せられたものは圓山派の外に又た蕪村などもある。とにかく近世に入り來つた支那畫の主要なるものは以上の二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

通の所謂明清畫で之を一名新漢畫といひ、之れに對して雪舟などが輸入したものを中古漢畫と云ふ。

△浮世繪及び錦繪

以上述べた各派の外に只一つ殘れるは、堤派が墮落して行衛知れずになりしといひし浮世繪に就てゞある。浮世とは佛語より來たので、現在の世といふ意味で、浮世繪は此意味からして當世の事物を書いた繪といふ意味である。此意味に從つて考へると其起元は隨分古く、今日殘つてゐるものでも、藤原時代の末から平家の時代に於けるもので、繪卷物の外に扇面古寫經とて、扇面に法華經を寫してある上に、經文を寫したものがある。現にこの繪は大阪の四天王寺に殘り、その他また世間にも散在して居る。この扇面古寫經の中に菓子を賣つて居る繪等があるが、浮世繪がその時代の風俗を寫したものと云ふなら、既にこれ等はその部類に屬すべきものである。然し今日云ふ浮世繪とは桃山時代から德川時代にかけて即ち近世に於て繁昌したものを云ふのである。書き方より云へばいろ〳〵の種類がある。土佐派より墮落して入れるもの、狩野派より入れるもの、狩野派と土佐派とを加へてなれるもの、これ等が既に合して浮世繪となれるものを受け繼ぎしものあり、もう一つは明清畫より入れるもの、またこれ等の外に西洋畫法をも參酌したるもの、又かの堤派より入れるもの等、日本のあらゆる書き方の繪を包括して居る。只包括しきれぬものは何かといふに、圓山、四條の兩派丈けである。これ等は浮世繪より後に發達したので、多少兩者の間に區別が出來てゐる。浮世繪といふ點よりは土佐、狩野兩派の合併が多く、この派の祖としては岩佐又兵衛勝以といふが有名である。自らは、土佐光信の門流と云へど、狩野派の筆法をも混へてゐるものもあるので勿論純土佐より出來たものではない。此人は從來有名な人であるけれども確かな遺作がわからなかつた。然るに明治になつて始めてその遺品の正確なものが發見せられ、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又傳記も明かになつたのである。古來又兵衛の作として有名なるは彦根屏風であつたが、彼れの遺作の發見と共にそれは又兵衛の作でないといふ事が明らかになつた。勝以の人物は皆下膨れの顔であるが、彦根屏風のものは此點に於て相異する所があるのみならず、畫も又兵衛よりも一層巧みな　がある。彦根屏風の畫中の屏風は山水は北宗的のものであるのを見れば恐らく狩野の名家で固より元祿より以前の

哥麿筆美人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

作である。且つその繪の出來榮えと落欵のない所を見ると當時の官畫をかく有名な人がかやうなものに筆を染めたとあつては殊更にその名を書かなかつたものらしい。序に落欵の事を申すが浮世繪の作品に落欵をして此派の自覺を喚起したのは菱川師宣である。師宣と前後して英一蝶が元祿の時代に出て居る。この人は將軍家を諷刺した畫を書いたが爲めに八丈島に流され、後許されて都に歸つた人で、狩野風を研究して浮世繪をやつた人である。その他師宣と前後して鳥居清信が居る。鳥居派に就て覺えて居らねばならぬ事は、芝居の招牌繪の鼻祖であるといふ事である。今日でも歌舞伎座等の舊劇の招牌を見ると太いわざとらしい線を使つて書いてある。これは高い處にのせ、隔つた處より見ても分るやうにしてあるので、實用上の目的から出たものである。次に勝川春章があらはれて來り、宮川長春が出でた。春章が竹林の七賢を美人に准らへたものは有名のもので現今美術學校に保存してある。次に西洋人の間なぞに最も聞えて居る北川歌麿が出でた。この人は睨み所が偉いので、知られて居る。その畫には臺所等をも畫題として居るものがある。昔の畫家で臺所等は如何なる畫家も繪かなかつた。かくの如く些々たる處に興味を持ち、そこに畫趣を捉へてゐる、是が殊に興味を惹く點である。歌麿の美人畫は型が定まつて居つて、その顏は顋が一寸突き出て居る樣な型を持ち女といふものゝやさしみを理想化して投げ出して居る。歌麿に次で豐國出で歌川流を作つた。その次に出でたのが葛飾北齋である。此人のは外國の繪畫にも影響を及ぼしてゐるので、然し達者過ぎて筆僻が露骨な爲に太だ嫌味がある。其畫風は明清畫を學んだ點もあり、また洋畫の遠近法をも研究して居る。北齋と同時に明清畫を入れて來たのが廣重である。此人は文人畫が山水に妙なるを利用して、之を持ち來つて日本の浮世繪風の山水を繪いて見た、といふ理想を持して居つた。そして純日本の風景畫を繪くと同時に西洋繪の遠近法を參酌して書いた跡

が見える。或は廣重は蕪村の系統を傳へた畫家に習つたとも云ふが、蕪村などの風致と似てゐる點がある。とにかくこの廣重があらはれると同時に、浮世繪に風景畫があらはれた。この點が廣重の傑出して居る點である。要するに浮世繪は大體以上の如きもので此派は現代に於ける人物畫等に大なる影響を持つて居る少壯作家などの中には浮世繪系統の人が頗る多い事は注意すべき事である。

浮世繪に伴つて錦繪が盛んになつた。といふよりも錦繪が盛んになつたに依て浮世繪が發達したとも云ふ方が正しいかも知れぬ。錦繪が盛になるに付勢版畫が發達しなければならない。初めは僅に丹繪、漆繪など云つて幼稚なものであつた。即ち漆繪は黒い部分に光澤墨をかけて光らしたもの、また丹繪は赤い部分を色どるに過ぎなかつたが、次第に複雜の色彩を用ふるやうになつたのである。而してかく版畫の發達した事は新しく浮世繪の發達を促す事となつたのである。

以上で日本畫各流派を擧げ終つたが、扨掛物と屏風（この中には障子、襖等をも含む）卷物に就てこれを分つ時には、掛物には狩野派、高僧畫、圓山、四條派、南宗及び寫生畫所謂明清畫、光琳等が多く、屏風には狩野派、雲谷、長谷川派、光琳、圓山派特に應擧等多く、卷物には土佐派、浮世繪等が多いといふ有樣である。以上の外に佛畫があるが、之れは他日に讓る事にするが、此には日本畫の流派のほんの大體だけを述べたのである。まづ以上の事を一と通り頭において、他家を訪問すれば、床の掛物にも、屏風、襖の畫にも深き興味を注いで見る事が出來やうかと思ふ。（談）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

朝鮮の女學生

在朝鮮 渡瀬常吉

△女學生の勃興

朝鮮も昨今は女子教育が中々盛でありまして、どの女學校も大繁昌であります。此の氣運は何時頃から生じたかと申しますと、三十七八年頃に其の萠芽を生じ、今頃稍や成長し來つたと申してよいのであります。固より宣教師の事業にかゝる女學校は、其の以前から始められて居つたので、今日では隨分多くの卒業生をも出して居るのであります。

△女學生の氣風

女學生の氣風は、日本程ではありませんが、隨分活潑で久しく深窓に閉ぢ込められて居つたものとしては寧ろ驚くべき程の變化を示して居るので、今から十年前否な五六年前迄では、被衣の間から細目に男子の顏を瞥見する位が、關の山であつたですが、今では堂々と男子と相對して立つことも恐れないので、而かも優雅な品致を備へて居るものも、少なくないので、之を通して現はるゝ朝鮮は頗る希望があるのであります。

△女學生の能力

女學生の能力は、此れから發揮さるゝのでありますれば、今日迄での所を以て決定することは出來ません。がしかし中々侮るべからざる者があります。京城、平壤、開城などの各種の女學校に就て、研究して見ますると、一通り普通學の出來ないものはないのみならず、其の中からは數學や理化學に、趣味を有する學生が隨分出で、唱歌音樂などの方面にも有望なる學生があるので語學(日英とも)の如きは感服すべき向きも少なくはありません。其の間には學問の方面に於て日本の女學生に讓らないのみならず識見態度に於ても、中々見上げたものもあるので、

現に東京の某女學校に居る一學生の如きは、代議士をして居る私の友人をして、感嘆せしめて居つたのであります。

△働きある婦人

日本の女子教育家には、隨分働きのある婦人方もあるのでありますが、あの小型とも云ふべき風の婦人も、朝鮮には少なくはありません。現に平壌の進明女學校を經營して居る、趙信聖と云ふ婦人の如きは、右申す型の婦人で、資本も何もない學校を經營し、人心恟々として居る際にも、泰然としてやつて居るので、私は此の婦人の將來には注意して居るのでありますが、此れも朝鮮の或る種の婦人を代表して居るのであります。又た私の知つて居る或る女學校の校長をして居る、趙男爵の母堂の如きは、態度と云ひ見識と云ひ、眞に尊敬すべき婦人で、一寸日本にも其の型の少ない樣に思はるゝのであります。或る時此の婦人が今の李太王に謁見された時に李太王はお前と學校をやつて居る女は、無學無識で日本では飴賣をして居つたさうだが、それで貴族の女子を教育する事が出來やうかと、問はれたさうですが、趙母堂は少しも騒がず、落つき拂つて、前かた何をして居つたかは存じませんが、學問と云ひ態度と云ひ、私などの企て及ぶ所ではありません。しかしそれが卑しい身分と云ふ事が御心に添ひませねば、殿下が之を貴くして御遣はしになれば、其の日から貴くなるので、何の造作もないのでありますと申したので、李太王は成程と頷かれたさうですが、此の婦人は又た一方の代表的典型であります。要するに朝鮮の女學生は斯の如き婦人を先輩とし、現代の日本の潮流にも染みつゝありますれば、教育の任に當つて居る人も、一通りの骨折りではありませんが、しかし何れも大なる希望を以て、目下急潮の如くに勃興しつゝある女子教育を導きつゝあるのであります。どうか内地の姉妹方が此等の新同胞の姉妹の爲めにも御盡し下さる樣に祈るのであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人の姿勢美と體育

木内愛子

姉はオベリン大學に體操研究し、過般業を卒へて歸朝し、女子大學并に香蘭女學校に體操を教授して居られます。

△姿勢美標準の變遷

身體を優美にするといふ事は、美といふ點から大切である斗りでなく、健康といふ點から非常に必要であります。其の美の觀念も時勢に從がつて變遷して行くのであります。昔は美人と云へば柳の如くなよやかに細く、月の光の如く青白く、頸は前方に屈し、胸は深く窪んで居るのを好んだものでありますが、此頃は身體が完全に發達して居るのを美として居るのであります。其の完全なる體格は、幼時に養成するのが自然でありますが、然し二十才を越えても出來ない事はありません。

△婦人の姿勢美

體格は勿論男女に依つて異つて居るのでありますから、此處には只女子に關した事のみを述べて見ませう。

第一に首、肩、腰、踵の關節を緩やかにする必要があります。特に女子は腹部の運動を適宜にして、其の筋肉の收縮を自由にして健康なる内臟を養成する必要があります。けれども日本人の腹部の筋肉は極めて固く、中には突張つた儘で、動かぬ人が往々あります。此腹部の完全に大きく發達したのが、女子の美で、丁度男子の肩幅の廣いのが美なると同じ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く、兩々相對したる特徵であります。

△その養成法

斯くの如く美しき體格を作るのは如何といふに、手を腰に押へて前後左右に身體を曲げる運動、及び舞蹈により又日常の働らきより云へば、洗濯する時、直立の姿勢をとり、盥を腰の少し下位に置いて、腰を曲げ〳〵するか、又ボート漕ぎ等は胸部を丈夫にする上からも、非常に効力があります。殊に腰部に脂肪が澤山たまつてゐた〳〵肥りになりたくない人は、特に此の運動をとり、食後晝寢をしない樣にし

出來る丈け運動して、絶えず身體を動かす事に務め食事は少し足らぬ位で止る事にするのが宜いです。

△姿勢の身體に及ぼす影響

足も踵の處が少さくて、膝頭から一吋位下の處が大きくよく發達して居るのが美であります足の裏の窪みは自然の儘を保つて、煎餅のやうにぺちやんこなつてゐるのは、美の點からは勿論惡いのですが、健康の足ではないのであります此の足の不具から身體の姿勢にも非常なる關係を來たすのであります。かゝる姿勢がいかに身體に影響を及ぼすかは、生理衞

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

生にも委しく說かれてあるでせうが、例へば右の肩が五分下つてると假定いたしますれば脊骨がランパーの處で左の方に曲り、自然の影響として左の腰部が大きく左方に突き出し、右の方が腹部の處でひどく內部の方に窪みが出來るのです。從つて內臟の位置は下部に下つたり、右部丈け發達して、左方が縮る譯です。さすれば何れかに故障が起るのは遁れないのであります。

又特に日本婦人の多くは首が前方に垂れて居るので、自然肩が前に曲り、胸を抑えつけて、心臟、肺臟を壓迫して居るのであります。然し又胸が餘りに出て居ても役立たないのであります。その胸の筋肉が自由自在に收縮せねばならないのであります。其の收縮の自在なる程、強い胸部を養ふ事が出來るのであります。

△步行の注意

以上の個所がよく達して來れば、自然優美なる體格を作る事が出來るのであります。どうも今迄の體操はやさしい方は餘りにやさしく、堅苦しい方はいかにも兵式體操の如く、男子の體格には適して居るでせうが、女子には全く必要が認められません。これ等は高等女學校初級の時から氣をつけて行つたならば、早く其の結果が得られやうと思ひます。第一步行の時に腰の關節から足を蹈み出し、膝頭を眞直ぐに爪先きをよく延ばし、そして其の前進する中心點は胸部の眞中にあるのであります。そして腰部から前にも、後ろにも曲らずに眞直ぐに、行くやうにし、少し大股にして步るきたいものです。外國人の中に入つて、日本人が步いてゐる處を見ないと、日本人が變な步るき方をしてるのが分りませんが、是れからの婦人はもすこし體育にも注意して、將來の婦人をして文明國の人々に劣らぬだけの姿勢をさるやう、子供を養育していたゞきたいと思ふのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

面白い女學校

しげ子

神保町の停車場で降りて少し後戻りして三崎町の方に向つて曲ると、北神保町の側に私立東洋家政學校東洋幼稚園と二つの立てた看板を見るであらう。門から右の方の道を少し這入ると園長先生が黒の上つ張りの服豊かに、園兒の遊ぶ樣を、樂しげに監督して居られる、之れが岸邊園長兼校長である。

「御覽なさい子供が得意な顏して遊んで居る」

と先生のお顏は子供よりもお得意、切れの長いお目に柔和な笑みを湛へて居らつしやる。

「女學校も御盛ですね」と申上ると、先生は又

「今年は豫想外の成績で、募集人員の三倍になりました。五十八人はと思ひましたら百五十八人になりました。斯ういふ裁縫女學校なんてものは兎角下品になり易く、監督上非常の困難があるものですが、此處では夫々に自ら衛つて甘くいつて居ります。或る方が修身の學科もなくては品性陶冶が出來ないだらうと言はれましたが、何アに品性は裁縫してゐる間にも陶冶が出來ますよ、今年は又慈善の方が甘く行きましてね、二等賞を取つた者は學校で褒められる斗りでなく家で二錢宛與へられる事になつて居り、その御褒美のお金で慈善をする事になつて居るのですから、自然身の勵みになります」と。

△作法は八疊の間

此校には特色の課目がある。地理、作法の如きは全く他校と教授の模樣を異にしてゐる。其中で作法は「私の家の八疊の間が作法室です、作法は八疊の間に限りますね、八疊の間を實地に應用が出來れば好いのです」と、成程座蒲團を八疊のお座敷に三人のお客と見て、其置き方から、お客を其處に置ての樣々の接待ぶりは、之は實際的である。時には臺所で水仕事の際中、玄關の客に急いで取次に出る稽古をする。襷を外して前掛を片寄せて、咄嗟の間に落着いた取次が出來るのが好いのであると。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

△地理は汽車の時間表

地理は教科書が汽車の時間表である事、之れは誠に適當の教科書であると思ふ。何時に新橋を立つた東海道の汽車は、何時に名古屋に着く、大阪には何時と、正確に早く時間と距離と其途中の驛々が覺えられる。「此間高等科二年を卒業して可成の成績の者に、九州の縣廳のある所を問ひました、唯だ一つしか知りませんでした。何の弊害かは知りませんが、どうも生徒に常識的の教育がしてない、教科書に計り窘められて、何でも詰め込み主義はいけませんね」と。先生は劃一主義には不賛成である。

△數學と石の目方付

「數學もね」と先生は數日前の御經驗を語られた。一貫二百三十匁の石を持たせて、一人々々に就て何程あつたかと問ふて見て、或人は五百目といひ、多きは十貫目など〻途方もなき目方付をした者もあつたとの事である。

△國語のみは教科書による

國語科丈けは教科書を用ひて居られるが、兼ねて論語を暗誦させてる。之は丁度ミッションスクールの聖書の句を暗誦させるのと同じである。「今役に立たずとも、何時か何かになる事と思つて」と。

△體操は仕舞

一時になつた、丁度水曜日、兎角濕り氣多い名さへ水曜日で間違なく降り出した。園兒の歸つた後は嵐の過ぎた樣、軈て教場で謠の聲がした。先生に尾いて歌ふ五六十人またお經風で節廻しが至て幼稚だ。二階では山階明子が二年の生徒に仕舞を教へて居る。下の教場の謠が終るとドヤ／＼と生徒が雨天運動場を舞臺代用に岸邊先生の御教授で仕舞が始まる。「右だ右だ、ソレ／＼此方を向くんだ」と聲を張り上げて御出のを後にして校を出た。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

祖母様

大塚楠男

一　停車場

嗚呼、如何な思で自分は祖母を待つたらう。九歳の自分を頭に、三人の子供を世に殘して死んで終つた母の後を、身一つに脊負つて、貧乏な家庭の繰廻しから、祖父や父の世話に殆んど二十年の月日を獻げ盡した祖母を、今日東京に迎へる喜びに、自分は胸を躍らしながら停車場の開札口に倚りかゝつてゐた。石炭の烟臭や荷物を運搬する音や、幾百人の忙しげに去來する一種落付きのない停車場の動搖は、何時でも自分に不愉快な情調と、惹いては激しい頭痛までも起さすのが例であるが、今日許りは停車場に於ける如何なるものも自分を刺戟する力を有して居なかつた。三年前に父危篤の電報を受けて、弟と共に七十五里を汽車で飛び、膝を沒する雪の中を、滑つたり轉んだりして、漸く家の戸口に着いた時、おゝ歸つたか、遲かつたと手を取つて泣いたおばあさん、あの時も既に腰が曲つて頭の毛が白かつた。三年後の今日は如何な姿になつたらう。父なきあとの寂しさに、日々を泣いて暮らしてゐるとは、折々の便りに知つては居たが、如何する事も出來ない自分の境遇に、痛い胸を押へ付けて、目の當り嘆きを聞かぬを、せめて一時の逃れとする程、自分の身體は慘めだつた。今年からはさゝやかながら家庭が出來た、末の弟も自分の家から通學する事となつた。今日は弟と何處々々に遊びに行きましたと、其都度愉快氣な通信に、祖母も要事を繰り合して、一冬を溫い東京で暮さうと、連れのあるのを幸ひに、大嫌な汽車旅行をする氣になつたのである。見すぼらしい家庭と苦しい內情を祖母に見せるのは、自分に取つて堪へ難い苦痛であつたが、何年となしに思ひ續けて來た衷情を、直接祖母の上に灑ぎかけて、此の手で此の口で痛はる事が出來たなら、如何に愉快な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事であらう。夜具も寝衣も着更も出來上つた。祖母は何より魚が好物、魚屋には毎日廻つて來る樣に命じてある。天氣がよかつたら早速明日にも二重橋から淺草を案内しやうと、自分の心は戀人でも待つやうな、一種幼ないうれしさの想像で一杯に張り詰めてゐた。

二　窶れた顔

「おばあさん、如何です、少しは氣分がよくなりましたか。

半ば病人のやうになつて汽車から降りた祖母を、車に助け乘せて、兎にも角にも牛込の奥まで引き込んだ頃は、祖母の身體は全く萎えて、車から降りると其儘玄關の二疊に倒れて終つた。もと／＼嫌な汽車に激しく酔つた結果である。有合の氣付藥を服用させて靜かに寝せてから、もう三時間にもなるが、以前の苦しさうな樣子にも似ず、すや／＼と熟睡して、襖越しに斯う問ひかけても何の返事もなかつた。

「先刻は妾如何しやうかと思ひましたが、今はよくお寝つてゐらつしやる樣ですから、明日は大丈夫で御座いませう。一寸開けて見ませうか。

と妻は裁縫の手をやめてソット襖を開けた。青白い瓦斯の光が流れ込んで、眼が凹んで頬がこけた其の顔を一層力なさゝうに見せた。

「三年前は斯樣に瘠せてはゐなかつたが、今日は甚くやられたと見えるね。

「今朝から何にも召上がらなかつたさうですから、尚更おやつれなすつたのかも知れません。

「何にしろ七十歳だからね。

二人は長火鉢を中にして、何時までも祖母の衰へた顔から目を放さなかつた。

自分が生れ落ちると間もなく、母は乳瘍で乳を切開しなければならなかつた。當時の不完全な醫術的治療で双方共後まで乳は出なくなつた。牛乳などのない田舎の事であつたので、祖母は米の粉を煑て之

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に水飴を交せて自分に飲ませた。罐もゴムの管もないので、細い竹を手頃に切つて急須の口に續け、吸口は初は棉を用ひ後は氷らした蒟蒻を丸く切つて、其眞中に穴をあけたものを使用した。毎日毎夜乳の製造から溫度の加減から、夜中なんどに泣かれると此方が却つて泣きたくなつたものだと、祖母は自分を叱るにつけ賞めるにつけ、幾度繰り返して話して聞かせたか知れない。之が身に泌みた故でもあらう、お產があつたと云ふ話を聞く毎に、お乳は出ますかと必ず何より先きに聞いたものである。それが近處の一口話に上る程、自分は近處から乳なし兒として知られて居つた。

　自分はお土產の柿をむきつゝ、斯んな事を妻に聞かせた。不圖おばあさんの顏を見ると、凹んだ眼をあけてニコ〳〵と、默つて自分の話を聞いて居られた。

「如何です、少しはいゝですか、お湯でも上げませうか。

「有難う、ずつと氣分がよくなつた、大變長く寢たやうだが、最早何時ぢやな。

「まだ九時前です、如何です起きられますか。

「起きられるとも。

と祖母樣は無雜作に茶の間に出て來られた。汽車の疲れで多少は窶れて見えるが、何うして矢張りもとの祖母樣だ、三年前と格別の變りはない。嬉しい嬉しい。自分は突然おばあさんの手を取つて袖を捲りあげ、兩手で其二の腕を握つて見た。

三　柏楊樹

「おばあさん、畑の隅にあつた柏楊樹はまだ其儘にありますか。

「いや、あれは、餘り大きく育つたものだから、下が影つて畑が出來ないから切つて終つた。

「左樣ですか、惜しい事をしましたね。

「如何してだい、あれは何にもなる木ぢやないよ。

何にかになつた處で一本の柏楊樹、如何する事も出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來まいけれど、自分には忘れられない床しい木であつた。嗚呼想へばあの頃の年の若さよ、何故とも知らず、切りに人の情が戀しいやうな、而も皆んなから離れてたつた一人遠い國へでも往きたいやうな氣分に襲はれて、若い勉學の盛り時を、白雲の搖曳に眺め入つたり、落葉した山路を何處迄も辿つたり、寂しさの甘さに捉はれて自ら憐れしと感じた頃であつた。切りに死んだ母の面影が戀しく、閑さへされば其墓に詣でゝ、暑からうとては木の葉を翳し、寒からうとてはマントを懸け、人肌で墓石が溫まれば念は地下に通ずると聞いて、臺石の上に踞んだまゝ何時迄〳〵も兩袖で、戒名を刻んだ方を抱いたものであつた。さうした果かない狂るはしい行爲から、甘い慰籍を見出して、人の知らない喜びに耽げつて居つた頃、自分は如何に彼の柏楊樹から反省と激勵とを得たか知れない。矗々として天を摩する程のんびりと育つたあの姿や一寸した風にもヒラ〳〵と飜る淨やかなその葉を見ると、自分の心は何時も朝霧が晴れて行くやうに、直ちに晴れ〳〵するのであつた。一寸した庭の眺めにも心許ない弱々しい色と姿に身を引き入れられる程の情趣を感じ、末枯れた蔓にやうやつと咲き殘つてゐる小輪の朝顏や、葉も朽ち枝も折れたさゝやかなおしろい花なんどを見ては本當に抱いてやりたいやうに感じたが、其度每自分の眼は畑の隅に超然と屹立し、萬事を知り拔きながら何にも知らぬ振りの裝ひで、只ヒラ〳〵と其葉を搖がして居る柏楊樹を見ると、直ぐに裏切られたやうな、自分で自分を振り廻へらねばならぬやうな感じを抱かせられた。

　月のある夜は無論の事、闇の晩でも自分は必ず雨戶を開けたまゝ寢たものだつた。月の夜は、月よりも高く拔け出して、葉每に諂ひ寄る月光を面白さうに飜弄する、あの何の關もないやうな柏楊樹、殊に雨の夜風の晩なんど、凡てが自然の威に跪伏して、空を限る前方一帶の山脈さへも、何となく打ち濕りて見えるのに、吾柏楊樹許りは、體を左右に搖しな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

がらも、烈しく葉を鳴すのみで、闇の世にぼんやりと卒嘴いて立てるその男々しい意氣込みに、自分は初めて男の心に觸つたやうに感ずるのが常だつた。只一本の柳楊樹、自分には尊い紀念であつたものを。

四　子守歌

祖母は八歲から十五歲までを江戸で育つた、父なる人の江戸勤番に隨て來たのである。黑船の騷ぎは江戸で見た人である。品川沖の臺場の御譜請には、お國の藩からも何千人出たとか、御所と、御殿の有樣を、細々と語り聞かせるのが僻だつたが、自分には一向興味がないものだつた。今度の上京は五十年振であるから、全然樣子が變つてゐるだらう、和田倉から入つて桔梗の御門の邊へかけては殊に祖母の記臆は明かであつた。誰樣のお屋敷の次は誰樣と、屛の模樣から間數迄頗るあざやかに話して聞かせる。斯う云ふ昔話になると祖母は夢中になつて語り續けるが常である。現代の文明に安住し得ない人は、過去の文明のよりよきを確信してゐる人である。「何しろ昔は」を繰り返へす祖母は到底現代の人ではなかつた。飯の食ひやうの遲い自分を戰場に出たら如何するさ叱つた人である、何かで泣く事があれば、男は首を斬られても泣くものぢやないと叱つた人である。自分は斯う云ふ風に武士的(?)に育て上げられた、母に乳がなかつたから、自分はほんの赤坊の時から祖母の懷に育つた、そして子守歌に聞く處は大學や論語の素讀だつた。大學の道は明德を明かにするにありと云ふやうな句を、妙な節をつけて言ひ聞かせた。自分は何の事とも知らず、自然と口先き丈けでは覺え込んでゐた。十歲位になつて父に大學を習つた時は、讀み方なんどは譯もなく覺える事が出來た。夫れから詩吟もよく子守歌に代用された。昔は藩の靑年間に流行したと云ふ唐詩選の五言絶句があつた、抑揚のない一本調子の憐ればいものであつたが、自分は此本が非常に好きであつた、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小學校に出ない中から十首位暗じて其調子を上手にまねた。中學の四年の時父の本棚から偶然唐詩選を出して見た時、自分の諳じてゐる詩があつたので、おばあさん、是だ是だと本を持て畑に仕事をしてゐる祖母を驚かした事もあつた。

祖母樣にはも一つ俗歌の子守歌があつた。

「おばあさん、あなたの子守歌は江戸時代のでせう

「子守歌つて如何なんだい。

「夫れ私がよく聞いたつけ、盆の盆の十六日につてあの歌です。

「左様さ、あれは昔お江戸でお盆頃には女の子が五人も十人も手を繋いで踊つたもんだよ。

「左様ですてね、私も此方へ來てから、聞いて見たんです。若い人は知りませんが、五十歳前後の人は知つてゐる樣です、何ですか、おばあさんも踊つたんですか。

「オホヽヽ、彼の頃は子供だつたから油蟲さ

「ドレ一つ久しぶりで私が歌つて見ませう、オイよく聞いて置け、斯う云ふんだよ、江戸趣味の極致だと笑ひながら妻を顧みたが、妻は笑つたまゝ、出來た葛湯を祖母樣にすゝめながら

「これならお腹にさわりませんよ。

「おばあさんいゝですか、やりますよ。

　盆の―盆の十六日に
　お閻魔樣にまゐろとしたら
　珠數の緒が切れて鼻緒が切れた
　南無釋迦如來手で拜む、手で拜む

「おゝ、能く覺えてゐるね。

「ナニ、時々一人でやつてるんですよ。

「ハヽヽ、明日は御身體の都合がよかつたらあなたの所謂和田倉に行きませう。

☆　☆　☆　☆　☆　☆

樂しい想出ももう二年前の事となつた。今年の冬も何卒して祖母樣を東京に迎えたいものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

トルストイの私信

森田松榮子譯

人類の爲に盡す、唯一つの道ある而耳。則ち善き自身となること是也。『此の如く人々の前に爾曹の光を耀かせ、然れば人々爾曹の善行を見て天に在す爾曹の父を榮むべし。』人、罪の泥濘中に立ち居る間は罪を排議するを得べからず。

吾人凡てにとりての問題は唯一つに歸す、要求するところは多くしかも人類に有用なる仕事は缺け居るを以て、財產上の吾人の立場より現在より以上を欲する事なく、更に少くもとめて生きん事を學び、人々にとりて必然有用なる働きを爲すべきことを學ぶべし、然して我等は各其の嚮ふ所に從ひ此方面より或は彼より、漸次此處に到らざる可らざる也。

人々にとりて有用なるべしとや！、そも如何にして？金錢を以てするにも非ず、物質上の助を爲すによりてにも非ず。氷滑場を掃除し、長靴を製造し、衣服を洗濯し、夜を徹して病者に侍するをいふか。或は然らむ。此等の行爲は凡て皆善からんも知れず此等は自己一身の爲よりも他の爲に益あるとなり、然れど此等は惡からんも知れず、此等は嚴密に申さば絕對に必要のものにては無きなり。唯一つの事のみは疑なく有用にして且必要なり、即ち正當に生くべき事を人に敎ふること是也。されど如何にして之を爲すべき？一の道あり、即先づ自己が正當に生くべしといふ事なり。我等の誤謬は敎訓が眼前の結果となりて顯はるるやうに敎へん事を欲するにあり、かく爲さんには是非とも言語によりて敎へざる可らず。然れども人の生活其物を以て敎ゆるは確實なる方法の最なるものなり、唯屢或は殆常に人は之が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

結果を見ることをあらざるべし。かくて殘れるもの一あり、卽正當に生くてふ事なり。神よ、我を助け玉へ。

人々は彼等が共に生くることを能はざることを永久に見出しつつあり「余は彼と共には住む能はず」「吁々君は能はざるか。然らば生くることをも同時にやめよ、如何となれば、今は彼と共にこそ全く君は生くべきものなればなり。」又曰はん「余は耕耘せんと欲す―ただこの畑のみは厭なり」と(而してこの畑こそ耕耘さるべき第一のものなるをや)「然らば君は唯僞れる而耳、君は耕耘するを希はざる也」。

余は多くの多くの人々に對してまことに此の通りなりし也。「余は彼と共には住む能はず、余は彼を去らん方善かるべし」。然るに是は爲さるべき中にて最惡しき事なるを、焉んぞ善しと云ふを得んや。

すべての物、簡素なる生活、克己、勤勞、謙遜その物―凡ての物は人をして人類と共に住むを得しむてふその一つの目的外に何等の必要ある事無し、卽人類と共に住むとは他なし彼等を愛することと也、斯くて餘のすべては價値なし。凡て我等の耕耘は蒔かれしものが生ぜんが爲になさる、然るに我等もし未熟なる作物を蹈み蹂らば、耕耘の益は何處にかあらん。

新刊紹介

△家計簿　羽仁もと子夫人編

羽仁夫人の家計簿は世に既に定評あるが如く、至極簡便のものであります。今回大正二年用のものを刊行するに及び十三版を重れて居ると申します。家計を健全にしやうと思ふ家庭で用ふれば、必ずためになります。尙ほクリスマス新年の贈物などにも適當なものでありませう。發行所小石川雜司ヶ谷一一九婦人の友社定價金四拾錢

△女中訓　羽仁もと子夫人著

女中の躾けにつき細々と述べられたものであります。奧さん方はよい女中がないので、隨分苦しまれる事ですが、然しまたかうして躾けて見て隨分ものになる女中があればどんなに樂しみな事でせう。發行所婦人の友社　定價金三十五錢

濁つた血

紫嵐

重い足音で登つて來た女は手に露がこぼれさうな眞紅のバラの一束を持つてゐた。女は振り向きもせぬ男の後に廻つて机の上から白い大きな鉢を下すと無言のまゝ花をうつして、片手で露をかばふ様にしてシエレーの片身像の側へそろへて置いた。

丸窓に寄つてウットリと暮れてゆく空を眺め入つてゐる女の艶々しい肌に紺の御召を引かけて、黒繻子の帶できりゝとしめた姿をジット見てゐた男の濃い眉はピクと動いたが、男は何も云はずに再び本に目を落した。かうした無言の中に薄闇は時計の音と共に擴がつて、遂に二人を黒い影にしてしまつた。

『小夜！』

暫時して男の落付た、烈しい聲は靜まり切つた薄闇を突き切つて、女の白い横面に飛んだ。女は身動もせぬ。

『小夜！已に云ふ事は最早ないのか。手紙の事はよく解つた……今夜、夜行で東京を立つて、明日の朝の舟で日本を去る——嫁にゆく——といふ字は確に讀んだ、それで今夜別れに來て呉れたのだらう……それも解つた』

男は言葉を切つて太い息をついた、丁度十三夜の月が社の杉の枝を離れて濁のない光を窓になげた。女は兩眼を閉ぢて石像の樣に白い靜かな顔をしてゐた。

『小夜！其外お前は已にいふ事は何もないのか……』

『よし。然し已はある。たつた一つ云ふ事がある、聞き度い事があるのだ。今度の事は余り突然で實をいふと已はまだ眞實と思へない位だ。已にはさつば

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り理がわからぬ、然し今無理にそれを解らせようとするのではない、唯一つ今度の凡てが御前の自由意志から出た事か如何かといふ事が知りたい、聞きたいのはそれだけさ。』

女は大きな目をパッチリと開けた。露もなければ曇もない。

『皆、私一人で決定た事ですわ』

聲は男を慄はせる程明瞭としてゐた、男は目を閉ぢて唇を嚙んだ、靜さは一段と劍しくなつた。男はツト立上つて花鉢の花を摑み出すと兩手で毟つて女を目がけて叩き付けた。眞紅のバラは狂つた心臓の血の樣に亂れ散つて女は遽と色にぬれた。月光は散る香に渦卷く樣に見えた。

『小夜――僕と一緒においで……己の行く所に連れてゆく…………』

部屋の空戸が再び靜かな月の色にみちた頃云つた男の聲は落付て優しかつた。刻つた石の樣な女の顔の肉が突然烈しく動いて眞靑な頰に涙が瀧と流れた然し聲は物凄かつた。

『あゝこんな私をまだ殺して下さる御情があるの……こんな……腐つた、冷い肉を刺して何になつて…………つまらない……』

其の底のない淵の樣に暗い深い女の眤を見たまゝ男は動く事も出來なかつた。

○　○　○　○

『己だつて生れながら仙人だつたわけでもないよ…こんな際捷い夜もあつたからな……女の方が偉すぎたからまづお互に無事だつた樣なものさハ……』

老先生の笑聲は古痕の痛に呻く樣に聞えた

『女の死んだ報知と遺書が着いた時　己は丁度待合の二階で二日醉で起きる事も出來ぬ仕末だつた』

『……女か……女は癩病で死んだのだ。三年間癩病の病院で看護婦をして遂に理想通りの死に就いたのだ。誰も知らなかつたが病毒は彼女が初戀を知り初めた頃から其燃ゆる血を犯してゐた。そし

て其酷い運命を第一に知つたのは彼女自身であつたのだ……』

『ウン——それが理由だつたのだね……火の様な彼女は戀を捨て國をすてゝ身をもつて其運命にぶつかつた、そして見事破れた。然し破れたのは彼女の肉體だけで其魂は生きた、永久に活きた。そればかりでなく墮落のどん底まで沈んだ己までも生かしてくれた。復活さしてくれた』

『今迄黃泉に向つ　呪をもつて一直線に突進した彼女は忽ち天に向つて望に滿されて走る様になつた。彼女の死は實に永久の平安に入つたのであつた』

『アー其信仰の道に入つた理か……それには又血をしぼ　れる様な悲慘な話がある、長くなるから云はぬが、一口で云へば美しい信仰をもつて故鄕にのこして來た夫や子供の祝福を祈ながら最後まで身が動けるまで同病患者に傳道をして遂に直に天にあげられた人の様に靜かな安らかな眠に入つた癩病の一婦人の死が小夜子を闇から光にうつしたのだ』

彼女が最後の祈と共に自分に送つて與れた聖書と信仰の告白書は、己にとつて神から直接に遣された御文、誠に新しき生命であつた。

小夜子は天に於て生れ、己は地に於て新しく活きた』

おもかげ

久野恭子

染子程、著しく心の明暗を形に現す娘は少くない。染子の容姿は、心の反射と云ふよりも寧ろ直に、心其物と云つた方が善い位のもので有る。心に、暗い雲が覆ひ被つて居る時は、染子は少しも美しくはない。そんな時は、眼がどんよりして頬が死んだものの様に艶がなく成る。が、何うかすると、ハット思はせる程、華かな、明るい顔を見せる時が有る。艶麗な笑と、澄んだ瞳の色を、染込ませる様に、人の胸に殘す時が有つた。

染子は、小さい時から、少し違つた所の有る娘で有つた。非常に romantic な好奇心を持つて居て眼に映るあらゆるものゝ中にローマンスを追求めた、人形を寝かして周圍に立てた二枚屏風に倦り乍ら、縁側に千代紙の様な模様のメリンスの座布團を敷いて　夫れに行儀よく座つて日向ぼつこをし乍ら、庭の松から松葉を二本とつて、可愛いゝ前歯に噛み乍ら、染子は毎時も頭の中に、不可思議な空想の網を廣々とかいひろげて、其網の目の一つ〳〵を潜つては樂しんだ。

大きく成つた此頃も、染子は自分を他と同じものとは思つて居ない。自分は、物の見方が他とは違つて居て、自分が物を見て思つた事を人に話しても、人はさうは考へないだらうと思つて居る。事實染子が、自分特殊の感情で心に描いた事を、何か話す時は、どんなに仲の善い友達でも、染子の心持を、ピタリと呑込んで呉れなかつた。眞心の有る御友達もたないのではない、染子の爲には、身を碎いて親切を盡して呉れる。其でも何物足りない氣がするのは、何んの御友達に惡い所が有らう、人の違つた feeling の流れを、心の奥に持つ自分が惡いので、仕方がな

いさ、染子は思つて居る。
染子は、人に見せないで、話さないで、大切に心の奥にしまつて置くものが有つた。話さないのは、羞しいのではない。自分と同じ心の人か、自分を了解して呉れる人にでなければ、話すのが厭なので有る。染子は、其を何時迄も、奇麗な露の樣な物を、柔い花瓣で幾瓣も重ねて包んで物の塵に觸れない樣にするが如くに、自分の心の奥にしまつて置きたかつた。其も普通の常識の土を踏んで云へば、ほんの極めて取留もない事なので有る。其丈に、尚更誰にも話し樣がなかつた。親にも、兄弟にも、御友達にも、誰にも話せなかつた。染子は其を話す事の出來る人が、何處かに唯一人居る樣に思つて居る。何處に居るのか、自分にも分らない。何時逢へるのか、それも分らないので有るが、何故かさう思つて居るので有る。此世に唯一人、自分の心に思つて居る事を話す人が、前の世から定められてある樣に思つて居る。

染子が何時からさう思ひ初めたか、餘程久しい以前からであらう。自分では、生れた其時からの樣に思つて居る。と云つても、其人が男か女かも分明しなければ、勿論、顏容の細い所なんぞ、尚更分らない、雲を掴む樣な頼りのない、覺束ないものでは有るが、染子は、其人とピタリと顏を合せさへすれば、直に「あゝ」と分る樣な氣がする。彼方でも、瞳と瞳の合つた瞬間に、「あゝ」此處に居たのか、と云ふ樣な顏をするに違ひない。道を行く時にでも、其を忘れない。何うかすると、ぼんやり考へ込んで居る其後に、立つて居る樣な氣がして、ふつと振り向いて見る事も有つた。名の知れない山の繪でも見ると、何んとなく其蔭の方に居る樣に思ふ事も有つた。
染子が、十六か七の時だつたから、三四年も前であつたらう、叔父の騎兵大尉に連れられて、向島の百花園へ往つた事が有る。歸りに、言問で御團子を喰べさしてもらふ約束であつた。
着物と羽織と同じ柄の大島を着た叔父と、粗い矢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

絣の袂から、緋綾の襦袢をチラ付かせる可愛いゝマガレットの染子とは、グル〳〵百花園の中を囘り歩いた。叔父さんは、一々花の名を云つて聞かせた末。「餘りしやべつて、喉が渇いたよと。」言つて、煙草盆の置いて有る臺に腰を下ろした。

衿の懸つた着物を着た銀杏返しの婢が、百花園と書いてある燒物の御皿に、餅菓子を一つと最中を二つ載せたのを二人前に、御茶を持つて來て、何かしら愛想の好い事を言つた。染子が最中を一つ丈しか喰べないのを見て、叔父さんは、

「御團子をたくさん喰べる用意なのかい、」と言つて笑つた。

百花園を出て、言問の御茶屋の前迄來ると、渡場から舟が出る所で有つた。彼方向に、男女の客を五六人載せて居る縞の着物に鳥打を冠つた若い男が、舟の中程に、俯き加減に座つて、此方の端には、派手な帶の人が、おつとりした洋傘を、愼しく開いて居た。

其を見ると、ふと染子は、其舟の中に、自分の胸の影が居る樣な氣がして、叔父の手を離れて、バタ〳〵と、二三間馳け出して舟を見送つたが、舟の人達は誰も此方を向かなかつた。一筋の舟足をひいて舟は、つい〳〵と遠ざかつた。ガッカリして歸へると、叔父さんは不思儀相な顔をして、

「何うした、何を見に往つたの、何うかしたのかい」

「いゝえ。」と頭を振り乍ら、

「叔父樣、早く御團子を喰べさして、」と云ふと、「喰辛抱だなあ、」と笑ひ乍ら叔父さんは染子を連れて、茶屋へ入つた。

其次は、去年銀座の市街を歩いて居る時であつた。灯のつく頃　染子は、買物をした明治屋から出て、急足に尾張町の方へ來懸ると、自分の二三間前を、美しい團が通る。能く見ると、十四五の雛妓が、三人ヒタと並んで歩いて居るので有つた。三人共、模樣は違ふが、地は御揃に赤い繻珍の帶を、抜衣紋の衿をくつ着き相に、高く御太鼓に結んで居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何處へ行くのか今頃、車にも乘らず、御座敷着らしい姿をして居るのにと、染子は珍らしがつて靜と見入ると、三人共、水の垂る樣な唐人髷に結つて居る。一番右の端の、紫地に紅で大きく寒牡丹を出した、鮮な友禪を着た子の、奇麗な衿足を見ると、染子はオヤと思つた。もしやと思つて、胸をドキ〳〵させ乍ら、急いで通り拔けて、そつと振り返ると、違つた〳〵、可愛らしい、艶麗な顏はして居たが、染子の胸の影とは違つて居た。眼が違つて居た。

染子は、又ガッカリして、味氣ない思ひをし乍ら、電車に乘つた。

其から、も一度有る、銀座で雛妓を見てから間もなくの事で有る。矢張黃昏に近い頃、染子は、粗い絣の糸織の塵除を着て、上野の淸水堂の石段を登つた。染子は、此處の御堂に飾つてある、たくさんの御人形が好きなので有る。上野へ往きさへすれば、染子は必つと、此の御堂へ登つて、種々な顏をして微笑んで居る御人形の前に立つた。何うかすると、三十分も一時間も、其處に立つて默つて見て居る事も有つた。死んだ子の御人形を、親が此處へ納めたと思ふせいか、御人形の微笑んだ顏が、染子には、云ひ樣もなくいぢらしく見えた。

其日は、もう、薄い夕闇が、ほんのりと邊りを立ち籠めて、不忍の方には、水の面に懷しい樣な灯影がさし初めて居た。段の中程で染子は、もう此の樣な空氣の色では、彼のいぢらしい、懷しい人形の顏も、一々分明とは見えまいに、何故先刻は引寄せられる樣な氣がして、彼の樣に勢込んで登り初めたのかと思つてふと立止つた。と、御堂の方を見ると、既に自分より先に一人、御堂の人形の前に、靜と見入つて、立つて居る人があつた。縞目までは分らなかつたが、しつとりした着物と羽織を、長目に着流して、スラリと瘦形の、丈の高い、其肩のあたりに目が著くと、ハッとして踉蹌き掛けて、染子は洋傘に摑まつて立つた。

後に人が來たのに氣が附いたのか、立つて居た人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、彼方向のまゝ、舞臺の端の方へ歩いて、不忍の方を見下ろして居たが。染子がお堂の間際へ進んでお人形の前に立つと、クルリと身を回して、ツカ〳〵と、段を下りて往つてしまつた。其時、チラリと見た横顔と、肩のあたりが、いよ〳〵似て居る様なので、愁じいに、正面に顔を見て眼を合せなかつた丈、餘計に、毎時迄も、染子は思ひに殘つた。

染子が、部屋の椽側に、坐布團を敷いて坐つて、強い日の光を浴び乍ら、所定めず、瞳をボンヤリ開いて居る時、母親は、父親の書齋に、お茶を持つて行つて、斯う話して居た。

「貴方、染は此頃、何うして彼樣に考へ込みますでせう。何か、心配な事が有るのでせうか。」

「ム、、何うだかな。」

「あゝ云ふ質の子で御坐りますからね、何んだか案んじられて。」と染子の母は、少し潤んだ聲で斯う云つたが、心配な事が有るのなら、何故其を、自分達に話さないのかしらと思つた。何んな煩でも、取り除けて遣らないと云ふ事はない、身に代へてもしてやるのに、何が有つても、一人で默つて、堪へる質なのだからと、母親は、一層不便な樣な氣がした。

「何あに、關はないで置け、彼は、御日中夢を見る子だ。天性だ。」と父親は、輕く笑つた限、默つて居た。

眞に、染子自身も、此頃の自分の心を、平な狀態とは思はない。上野で、胸の影ではなかつたのかと思ふ樣な人を見てから、一層劇しく其思ひに附き纏はれて、夜も晝も、身の内外を、霧の樣にそれが立ち籠める。殊に夕暮時は、灰色に漂つて居る薄闇の中に、仄かに幻に立つ、後向きのまゝで、靜と、懐手をして立つて居る。肩のあたりが、やゝ分明して、次第にぼんやりと淡い色に消えて行けば、何とはなしに、此世の人ではない樣な、引かれて自分も、人の世のものではない樣な、怪しい心持に成つて、染子は、あやかしの糸に、十重二十重と、身を捲かれて居る樣に思つた。夜は夜で、夢の中で

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、時々、顔の定かに見えない程の所に立つて、此方向きに成つて、につこりし乍ら、
「私に、何か話す事が有るのかい。」と言つて居る事も有る。
斯うして、此頃の染子は、彼世の人か、此世の人かも分らない、まして、名も住所も分らう筈のない人に、一目でも逢つて、自分の心の奥に藏つて置く事を、話す事が出來さへすれば、凡べての執着を、一時に投げ出しても、惜しくはない樣に思ふ。幾ら思つても、それは、たとへば一人の人が、夢の中に見た花、珍奇な名の知れない、人に觸れなば崩れもすべき淡い色の花に、身の内の思ひを寄せて、あこがれて、遂に夫を求めて、當途もない旅に上る樣にも、果敢ないもので有る、取留もないもので有る。斯く果敢ない、斯く取留もないものゝ中に、何故かほど迄深く身を浸して、絶えずうら懷しい思ひを湧かせるのかと、染子は、自分でも不思議に思つた。
「私は、病氣に成つたのね、」ほつと息を吐き乍ら、うつとりした調子でさう言つて、染子は、坐布團を持つて立ち上つた。そして、部屋へ入つて、針箱の側に疊んで在つた御人形のものらしい、艶麗な友禪物を擴げて、縫ひに掛つた。
着古した物ではあるが、鼠掛つた縞お召の、染子の羽織に、擴げて居る小切れの匹田鹿の子が、パットト映つて、染子の顔を、一層、白く、柔く、見せて居る。
染子が、赤い絹糸を針に通した時、庭から、眼の大きい、ズングリ頭の平三が遣つて來た。飛白の羽織の裾の方を、一寸上の方に捲り上げ乍ら、緣側に腰掛けて、
「好い御天氣だね、染ちやん、何してるんだい。」
「アラ、平ちやん。」と染子はにつこりして、
「いらつしやい。今日は學校の休みなの。」
「ウヽン、御午過のレクチユアは、休んだ。伯父さんの御呼び出しなんだよ。必つと此間僕が學校を一週間休んで、鎌倉へ往つて來た御小言なんだらう。

伯父さんのお小言は嚴しいからね、閉口するぜ。」
「アラ、父様に叱られに來たの。」と染子が驚いた樣な顏をすると、平三は笑ひ乍ら、
「多分さうだらうと思ふんだよ。」と言つた。
染子は、氣が着いた樣に、自分の坐布團を外して、緣側へ出して、
「平ちやん、御敷きなさいな。」と言ふと、
「俺あ好いよ。染ちやん敷いといで。」
「私はいゝの、疊だから。平ちやんは緣側だから御敷きなさいな。」
「じやあ貰ふよ。」と、平三は、敷いたまゝ庭の方を見て居る。染子も暫く默つて、庭のダリヤを見て居たが、不圖氣が着くと、平三が、何時の間にか、此方を向いて、只さへ大きい彼の眼を靜と見張つて、自分の顏を見て居るので、何んとなし眩しい樣な氣がして、
「厭あよ、平ちやん。」と笑ふと、平三は突然、
「染ちやん、お前も屈托さうな顏をしてるね。」と言つて、又、
「何故そんな顏をしてるんだい。何か心配でも有るのかい。」
「何故、其樣事を聞くの。」
「だつて、心配さうな顏をしてるからさ。染ちやんの樣に、穩な位置に置かれて、周圍を、温い親の翼に圍はれて居る娘でも、そんなに屈托さうな顏をする事が有るのかい。」
「そりやあ有るかも知れないわ。」斯く言つて、染子は、一寸笑つた。
平三は、尚も、其大きい眼で染子を見詰め乍ら、此若い從妹、外側から見ると、普通の幸福の意味を殘る所なく浴びて居る此娘を、惱ます何物かを、知り度い樣な氣がした。

「遠藤千浪さん」を讀みて

在臺灣　井上伊之助

未だ見ぬ教友有田四郎君に捧ぐ

親しく御面晤を得ざれど新女界にて御尊名を知り、殊に小生の親友遠藤君と御親交ありしを知り、何とも云へぬ懐かしさを感じ、君を失ひて君を得たるを喜び、本島に於ける君の短かき生活と、最後の状を略報致します。

君が臺灣に來たのは本年一月の中頃で、小生は不便な蕃界に居るので容易に都に出られず、書面で君の着臺を迎へた樣な次第でした。君は病氣のため十年以來暖かい島廻り計りして、最初に伊豆に往き小笠原、大島等を經て最後に本島に來たのです。尤も君は數年前から本島に來る決心でしたが、種々差閊があつて今年まで果すことができませんでした。

三月の中頃でした私の家族が渡臺したので、それを迎へるため臺北に往き（一は君にも面會するため）久振で樂しき會合をなし、君の將來の方針など聞き、自分の現況と將來の方針に就て語り合ひ、偕に祈をして新しき信仰と希望を得て、小生は山に歸り君は本島南部に往き、內地人（本島人や蕃人と區別する爲吾々を斯く名くるのです）の教會や諸方に淋しく暮して居る少數の信者を訪ひ、或は蕃社（歸順せし蕃族）を視察して、あの弱い體で一日五六里も徒歩した事もあつたとのことです。杜丹社と申す處の蕃人等は非常に君を歡迎して、家も建てるから是非來て下さいと（素より通譯で）のことで、將來同社に定住する考で其筋へも交渉中でしたが、理蕃上の都合で公然布教を許されず、蕃童教育として許可されそうな談もありましたが、それも捗々しくゆかず、再び臺北に歸り時期を待ちつゝ同地有志基督教會（組合教會の前身）の依賴に應じ、牧會して居つたのでした。

其後六月の中頃小生が同地に往き、十日間許り寢食を共にし親しく語り合つて幸福な時を得ました。君は相變らず二食でしたが丼の樣な茶碗は小笠原へ殘せしか、將た大島に忘れしか本島では御伴をして居りませんでした。其時恰度日曜に當り、君は哥林多後書十二章一節より十一節を讀み「臨終の所感」てふ題で前週の水曜日にあつた君の實驗談をしたので會衆は大なるインスピレーションを受けた樣でした。併し君が五十日の後に此世を去つて、此日の談が事實とならうとは誰一人（恐らく君自身も）想像だにせなんだでせう。其談の概略はこうです。

君が前週水曜日祈禱會からの歸途、町外れで例の病氣が發作して非常に苦しくなり、路傍に伏して治るのを待ち居りしに氣絶したと見て、全く異れる意識（或は無意識か）となり、周圍は俄かに輝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

き渡り、遙か向ふには何とも云へぬ美妙の光を認め。何等苦痛を感ぜざるのみか云ふ可からざる快感に打たれた、之ぞ兼て待望めるパラダイスならん、自分は何の價値もなけれど最善を盡して使命と信ずる事を爲し來り、心に何のやましきこともなければ(神の恩惠に由り)永遠に此所に住む事ができるであらうと思ふ瞬間、本性に立歸り倘苦痛を覺へ傘にすがりて漸く市街に出で、車に乘り下宿に歸りたり、之は幻なりしか、如何なる心理の狀態なりしか知られど。若し事實なりしとせば如何。吾等は何時神の臺前に立たねばならぬか計られず、常に使命を忠實に盡し、神に逢ふ備へをせねばならぬ云々。

私は山に歸り、君は間もなく健康勝れず、南庄と申す蕃界近き處(十名餘りの信者あり、此頃新築せし教會もあり、本島唯一の理想郷)へ轉地療養をなし、傍ら傳道して居りましたが、八月五日の夕方同地信者より君危篤にて殆ど見込なけれど、信仰益々堅實、敬服の外なしとの通知を受け、翌日は早速訪問せんと思ひ居りし處へ、逝去の電報に接し、十年以來の親友、將來の同勞者を奪はれ、云ひ難き悲痛を感じたれど、主の聖旨の然らしむる處なれば、目前の我小なる損失を嘆くは愚か、せめて屍になりとも最後の訣別をなし其臨終の狀も委敷聞きたく、飛んで往きたく思ひしも、蕃界の山途二十餘里もあり、如何に急ぎても二日を要し、夏の盛り併も臺灣の暑さ、迚も三日も死骸を留置く譯にゆかず、臺北に在る友人が往きて萬事取計ひ吳れ、小生は出發を中止しました。斯る次第で臨終の狀態など實見するを得ざりしも、聞く處に由れば實に立派な最後で彼地の信者等は君の暫らくの滞在と逝去が、如何に偉大なる感化と教訓を與へしかを語り、永久に彼地の紀念となると天に感謝しつゝあるとのことです。

君の生涯は長からず常に逆境に立ち、不治の病氣さへあり、惡戰、苦鬪、仰の如く臺灣のはてゞ漂泊者の最後でした。然し死ぬ迄戰つた(五日前迄說教をしたとのことです)君はパウロの如く、既に善戰を戰ひ馳す可き途程を盡し信仰の道を守れり、今より後義の冕、我爲に備へありとの確信と希望を以て、過る夜臺北の路傍に於ける幻の如く、否、更に優れる淚も死もなき輝ける生涯に入つたことを信じ、君の爲に感謝するものであります。友よ幸に君の故に此賤しき小生を憶へ、君に於ける友情を以て將來御交誼を願ひます。御住所と共に御近況を報ぜられなば幸甚。小生は左記に在りて藪醫者ならぬ山醫者の眞似を爲しつゝ、將來の備をなし居るものであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

◎敵を愛するの心

原の人

敵を愛せよと云へば直ちに賣國奴の如く罵りさわぐ人も困り者なり。「四方の國皆同胞と思ふ世になど波風の立ちさわぐらん。」との御製は一面愛敵の精神を歌へるものならずや。只管に異國を惡み我より戰心してかゝらば英も米も明日にも敵となりつべし。我鄕里に今は故人となりたるが、德望ある一人の老儒ありき。其人赤十字社のことを如何に説明するも分らず、皇國に弓引かんものは不倶戴天の仇敵なり病めばとて、負傷ばとて之を助くる法やあると、いつかな聞入れず、當局者を困らせたりき。これ皆島國根性のゆゑなり。世界を相手として生くべき大國民の道德ならず。

維新の頃米艦の我國に來る屢々也。或時米艦長門の海に碇舶しけるが、さる攘夷黨の士が、亂暴にも艦に發砲して、一青年士官は爲めに悲慘の最後を遂げぬ。其士官には歸國を待ちて樂しく家庭を作るべき婚約の令孃ありけるが、樂しき日は廻らずも白骨を迎ふる悲しき日とぞなりける。彼女は健氣にも我良人の落命せし地こそ、我が生涯を終るべき地なれと父母兄弟に別れをつげて日本に來り、長州に於て神のため人のために盡さんと決しぬ。長門秋町のさる女學校は卽ち此の未亡人の創立經營せしもの也。あゝ美しき愛敵の心なるかな。地をかへても思ひ見よ、我國の女性、かゝる雄々しき心もて、我婚約の夫を殺したる外國に渡り、身をその國と人とに捧げうべきか。こは女にも男にも六ケしからめ。之れ島國根性の賚物にてあらじか。ほしきは愛敵の心なり。

◎あさましき心

去年の夏大阪の宮川先生と、友の幾人と有馬より

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六甲に超えたることあり。六甲の山巓は日本の別世界なり、百軒に近き西洋人の住家ありて、其ために郵便局の設けもあり。洋食品店、果物店など、よろづ西洋式にて、往きかふ人皆西洋人のみなれば也。但し此處に四五軒の日本人の別莊あり。そこにて尤も醜く感じたるは、洋人の家は野の裾森の中などにかの油繪なんどに見る樣に、垣も塀もなくゴシック形の質素に趣き多く建てられたるに、日本人の家は墻垣いかめしう、枳殼を植え針金など引き廻し、まづ泥棒の要心堅固也。アヽあさましの心よとしみ〳〵思ひぬ。余は市街にてかの煉化の塀の上に、ガラス植えたる住居を見るたびに、住む人の心しのばれて、何とも云へぬ不快の心地してならず。彼れも之れも皆な島國根性の發揮にあらざるか。又乃木大將の自殺を持てはやして、之れなむ大和魂なり、日本武士の精華なり、目ある者は見よ、耳あるものは聞けと叫ぶ人、如何なる心なるか、聞かまほし。貴きは大將の平生にして、自殺そのものにはあらじ。學ぶべきは大將の人格にして、殉死そのものにはあらじ。讃ふべきは大將その人にして、其自殺にはあらじ。さるを、何もかも打すておきて、見ん事自刄せしてふ其の壯烈のみを誇る。而して之を云々する者あれば非國民、不忠漢として、其家に脅迫狀を送り、石を投ぐ。さてもあさましの心や。

◎天國の面影

海老名先生が京都の總會を了へて歸らるゝと云ふ夕、時を計つて道子孃、綾子孃、彌夫君、雄二君の四人が、原町の停留所に出迎へられた。今度のに、今度のにと、電車の數を十三輛程まつて十四回目のに、何に暗示を得たか今度はきつとよと道子孃の云へば、三人も眼を丸くして下車する人を見てると先生は辨慶のやうに抱いたり、提げたりして下車せらるる。アヽいらつしやつた。お父さまお歸りと四人が一聲射擊をやる。オヽお迎へかと、先生もニコ〳〵顏。私が持つ、私にも、私にもと毛布や、コウ

モリや包みやを道子孃、彈夫君、雄二君が引つたくれば、仕損じたりと綾子孃しばし三人を羨んだが、「綾子はお父樣を持つ！」と抱きついた。先生も之には大滿足の體であつた。余は之を見て、こゝに天國の面影が見ゆると思つた。「天國の者は斯の如し」と云はれた基督の聖言が心から味はれる心地がした。

◎勢力

八重子

學校の寮舍でも年末の休暇は相應に忙しい。大掃除、餅搗、お重詰は大勢の手で賑かに仕上げる。日が暮れてからめい〳〵の室で身のまはりの支度をする。自家から送つてもらつたメリンス友禪を襦袢の袖に縫つて、襟をかけると、もうお正月が來たやうな氣がする。まだ襦袢を一枚裁つて縫つて、それから年始狀を書いてしまはうと、お湯殿から上つてそは〳〵と二階を上ると、どの室も灯があか〳〵と射して、火鉢の火が盛に燃つてゐるのをとりまいて、せつせと手を動かしてゐない人はない。みんなの顏は上氣して、張り切つた元氣が漲つてゐる。岸田さんが白の紋羽二重の襟に折をつけて、針で抑へながら「あゝ厭、もう止めにしませう」つて頽れるやうに火針の角に身を投げ掛けた。「だつて明日お召しになるのでせう」「えゝでももうするのがいやになつた」折角元日の式着に買つた白襟を掛けないで、どうするのだらうあの人はと、私の心には不思議でならなかつた。私より八つばかり年上の人であつた。

疲れといふことを知らない若い學生は、讀みたいだけの書物を讀み、講義といふ講義にはどの教室へも出かけた、剩つた活力は、新らしい襟一つ掛けないでしまふことをも生の矜りを傷けられるやうに怖れたのであつた。その時に不思議であつた人の心持が解るほどに人生の經驗を積んだ頃は、自分も痛ましい、疲れた旅人になつて居た。心の底から湧き出る同情と慰籍とは、何の人事ではない。自分が求めて居るのであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

色々な岐路、廻り道を永い間迷ひ歩いた自分であつたと漸く氣付いた頃から、勢力の浪費は罪惡であると思ひ出した。弱い者といふ女の缺陷は勢力を把持するに堪へぬといふ意味ではないかと思はれる。

◎女學生の風規につき

記者

過日女子高等師範學校にては警視廳の山本捜査係を聘して都下女學生の風儀問題につき一場の講演を聞きしやに傳へらる、其講演の梗概は當時の新聞紙上にて傳へられて　吾等の目にも觸るゝ事を得たり山本捜査係歸來人に語りて曰はく「聽衆の半分は信せざりしやうなれども、余は現時の女子教育には最も不快を抱く者、此際何とかして教育家の眞面目なる矯正を望むと。詢に近時屢々新聞紙上に傳へらるゝ云ふも忌はしき女學生の風儀は、何人と雖も聞くを欲せざる所、信ずる事を欲せざる所なり。別して教育家の多數は學校若しくは校友など比較的眞面目なる範圍にのみ交際し、從つて其見聞も社會の實相に徹する能はざるは、誠に其の處なれば、餘りに甚だしき暗黒面の報告には、半ば疑はんとする態度の見えたるは、寧ろ教育家の尊き所なりとすべきも、其處が又實社會の眞情を知れる人々の目よりは齒かゆく思はるゝ所あるべし。想ふに教育家が學生に接するは學校内のみにして、一度學校以外に出づれば教師の感化は到底及ぶ能はずして、一に家庭の教育に待たざる可らず。而も其家庭が果して如何なる者かを考へ來れば益々寒心せざるも能はざる所なり。

想ふに其適當なる方策に至つては教育當局者に於て種々ある事なるべしと雖も、我等は常に斯かる事件の世に現はるゝ毎に、女學生が益々窘束され殆んど牢獄に投せらるゝ如き觀を呈するを見て、禍の却て此處に萠すにはあらずやと思ふ、願くは人格より人格に訴へ開發的に自發的に指導する教育法行はれん事を。此事學課の上には既に應用され居れど、未だ精神上には及ばざるが如し、誠に惜しむ可き事也

時事其折々

記者

近東の風雲

伊土戰爭が何うやら講和が出來かゝつて、平和回復の曙光が現はれたを喜ぶ間もなく、此戰爭を好機として巴爾幹の諸邦が同盟して土耳其に對し、又々干戈を動かす樣になつたには、其是非直曲が何れの方にあるにせよ、誠に困つた事であります、而も之が人種問題や宗教問題にも連關して居りますので、熱狂的な戰爭になりはしまいかと云ふ恐も充分抱かれるのであります。

●●●●●●

▲巴諸邦と土耳其　もと〳〵土耳其と巴爾幹諸邦とのいざこざは隨分古くからの事で、一朝一夕の事ではないのでありますが、殊に土耳其が南境の希臘と北境の勃牙利(ブルガリヤ)、塞爾比(セルビヤ)と事を構へて居る事は久しいもので、就中マセドニヤに於る勃牙利、塞爾比、希臘人と土耳其人との間には人種上宗教上の相異から、極端なる反目の結果は殺戮强奪などを互に擅にして其怨が絶ゆる事がなかつたのでございます。加之アルバニヤの國境では黑山(モンテネグロ)との衝突を惹起し、クリート島でも回々敎と希臘敎徒との間に紛擾が續出し、土耳其は其隣接する凡ての國々から始終恨みを以て迎へられてゐたのでした。

八月の頃コチヤナと云ふ處で、土耳其兵は勃牙利人を鏖殺した事があつた、此の事は勃牙利の爲めに土耳其を難詰すべき絶好の口實を與へたもので、早速强硬な抗議を土耳其に申し込み國民は一齊に立つて開戰を叫ぶに至つたのであります。偶々マセドニヤの一部なるコツソヴオの云ふ一村落で、多數の塞爾比人が土耳其人の爲めに殺害されたので、市民は直ちに首府ベルグラードで一大示威運動をやり開戰を主張したのであります。而も又一方勃牙利塞爾比はマセドニヤの改革を主張して土耳其に迫り列强間を運動して、何んでも彼んでも開戰しなければやまぬと云ふ勢を示したのであります。此間に諸邦は土耳其に對して攻守同盟を締結したらしく、何かの口實で開戰を見るならば、諸邦は悉く起つて、土耳其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を擊たうと云ふ決心をしてゐたのでありますが、然し巴爾幹半島に於ては、英佛露澳伊等の列强の利害が非常に密接して居りますから、うつかりすると之が動機になつて、列强國の戰爭を惹き起さないとも限らないので列强は盛に干涉して、土耳其に對する巴爾幹諸邦の戰意を抑えて居たのであります、然るに黑山が獨り列强を出しぬき、同盟諸邦に先んじて宣戰を布告し、直に土耳其國境に迫り猶豫なく砲火を浴せかけたのであります。

▲黑山國と土耳其　黑山が他の諸邦に先ち十月八日を以て宣戰を布告し機先を制したのは、勿論同盟諸邦と豫め打合せがあつた事とは思はれるが、土耳其に對する黑山の野心が他に比して勝る事を現はして居ると思はれます。抑も黑國の土國に對する野心は一朝一夕の事でなく、其關係は悉く紛擾の歷史で、軍隊の衝突許りの有樣でした、黑國は元々塞爾比の屬國で、塞爾比が土國に合せられた時、同時に合併されたのだが、後塞爾比が獨立を企てた時は、黑國は塞爾比の政治亡命者の潜所で土國政府も之を如何する事も出來ぬ有樣でした。千八百七十四年の十月目下黑國軍隊の根據地なるポドゴリッアに於て黑國人と土國人との衝突があつた際、多數の黑國人が虐殺されて、土國は表面上罪人を檢擧したが、暗に之を助け許したので、黑國人が承知せず、玆に亦開戰の主張が現はれるやうになりました。適まボスニヤ及びヘルツエコヴイナに叛亂が起つた。之を好機として塞爾比及び黑山が兵を擧げたが、露澳獨の干涉で戰爭を見ないで濟んだが、土皇帝は詔勅を發して行政改革を約さなければならぬはめになりました。此約束は墺國大使アンドラシーの草した共同通牒によつて初めて效力付けられたものであるから、アンドラシー條約と云ふ名で知れて居ます、然れども土國は其約を果さず、而も塞爾比及黑山の兵は土國兵に破られたので、遂に露國は武力的干涉を試みたのであります、之が近世史上有名な露土戰爭の原因であります、此戰爭はサンステフアノ和約により塞爾比黑山は獨立を承認されて公國となつたのであります。其後黑國は露及び澳より資金を仰ぎて軍備其他の擴張に努め千九百十年八月二十八日列强の承認を得て王國となり、玆に勃々たる野心を以て南下の大計畫を立つるに至つたのであります。

▲アルバニヤ事件　此時又アルバニヤ事件と云ふの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が起りました。アルバニヤ人は白人種で大半は回々教を信じてゐます。青年土耳其黨が新政府を組織した時中央集權制を採用して劃一の制度をアルバニヤに布き學校は土語を課し又アルバニヤ人の生命とする武器を沒收せんとしたので此處に亦忽ち叛亂が起つた。之は昨年三月の事であります、此叛亂が重に黑國境附近から起つたので、土國は之を黑國の使嗾に出るものとなし、中立違反ぢや、いや左樣でないと云ふ議論が土黑兩國間に紛糾して緊張した危機を造つたのでありますが、列强は黑國に干涉して來たので、黑國は自國に逃亡して來てゐるマクソリ族に降伏をすゝめたものゝ、其條件として初めから容れられないと判つてゐたアルバニヤの自治を要求させた。然し此自分は土國の分裂を促すものであるから土國の承知す可き筈がない、斯くして兩國の關係は益々險惡となつて來て居る處へ、本年になつても又々國境に於て兩國兵の衝突があつた、それやこれやで土國が伊國に對する戰爭で、力を他に用ゐる事が出來ないのを見、千歲の好機逸す可らずとして連合して事を擧げる相談をなし、黑國のみ、先づ戰を宣し十月九日黑國王ニコラス一世は自ら出馬して戰場に臨み、爲めに土國軍隊はプラニニツア山の第一陣を退却するのやむなきに至つたと云ふ事であります。

▲戰爭其後の經過　其後十月十八日のルーター電報は土は勃牙利塞爾比希臘に對して宣戰を布告し同時に三國も亦土國に對して宣戰を布告した事を報じて居ります。又十月十九日のタイムスは『勃牙利王フエルヂナンド陛下は詔勅を下して宣戰を布告し、言々句々熱誠を以て溢る、王は先づ國境の彼方にある同胞が土耳其の壓迫を被り悲慘なる境遇にあるを救はんが爲め干戈を取るべしと說き、今回の戰爭は新月旗國に對する十字架國の戰鬪なり』と說いた由を報じて居る處から見ましても、此度の戰爭が稍々狂熱的のものに近い悲慘な光景を帶びて居るやうに思はれます、戰爭其後の模樣は土軍多くは利あらずして、漸次退却の有樣でありますが、然し七國は兵力に於て連合軍よりも優勢であるのみならず、獨逸のゴルツ將軍の訓練により頗る精銳だと云ふ稱がありますから、戰爭の終局は如何變化するか、只今から豫想する事は出來ませんが、或は遠らぬ中列强の干涉に依つて何とか解決が着くだらうと云ふ觀測をしてゐる人もあるやうです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編者より

△本誌主幹海老名彈正氏令息一雄氏は、この程二年の留學を終へて、米國より無事歸朝せられたるが、來二日兼ねて婚約中なりし德富猪一郎氏令孃孝子氏と本郷會堂に於て小崎綱島兩牧師司會の下に結婚式擧行の筈にて、目下上州地方に傳道中なる父君彈正氏は、二日朝歸京この式に列せらるべく候。良家庭に人となり、此處に美はしき新家庭を結び始めらるゝ人々の上に、いやまし神の御恩寵の豊かに加はりて、幾久しく榮えまさんことを只管に祈らるゝ事に候。

△本誌掲載の「日本書各流派のお話」は四時間半に亘りたる講演にて、其の大要を記すも容易ならざる事なりしが、澤村文學士は多忙の中にこれを懇ろに校閲、加筆せられ、且つは國華社より此處に插入の寫眞を與へられたるは、深く感謝致す處に候。氏と云ひ、この講演の主催者中村春二氏と云ひ、我が國婦人の年毎に物質的に傾き高雅なる趣味に餓ゆるを嘆かれ、もし今にしてこの養成に力を注がずば、人々は住むに堪へざる砂漠に在るの思ひあらんとて、眞實人の前途を憂へらるゝにて候。願はくはこの記事をもその心して深く味ひられたく候。（三四子）

定價

(郵税加算)	内地及朝鮮支那	外國
一部	金拾貳錢	金拾六錢
六部(半年分)	前金七拾貳錢	前金九十貳錢
十二部(一年分)	前金壹圓四十錢	前金壹圓七拾五錢

廣告料

一行(廿三字詰)	金廿五錢	一頁	金拾圓
四半頁	金三圓	内表紙	金拾貳圓
半頁	金五圓	外表紙	金拾八圓

猶ほ引續き御廣告の向へは特別大割引可仕候

摘要

▲本誌代金は總て前金にて御拂込み被下度候
▲郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候
▲御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候但手數料金壹錢御加へ被下度候
▲通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

大正元年十月三十日印刷
大正元年十一月一日發行
發行兼編輯人 東京市小石川區林町四十三番地 海老名彈正
印刷人 東京市小石川區丸山町四番地 相原一郎介
印刷所 東京市赤坂區田町五丁目十一番地 齋藤活版所
發行所 東京市小石川區林町四十三番地 新人社
電話番町二五四四
振替貯金口座一四〇〇五

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九一三年度
海外新聞雜誌

豫約期遅るゝ時は一月號の送達を遅ふし且或は缺號の憂あらん

豫約價は特に交渉數回して協訂したる出來得る限りの最低限度也、其送達は正確にして且迅速也、弊社を通じて申込まるゝは本國發行元に直接御注文あるよりも却て低廉にして且安全也

海外新聞雜誌改訂目錄御申越次第進呈

各種見本陳列

東京日本橋區通三丁目
大坂東區博勞町四丁目
京都三條通麩屋町西入

丸善株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新人

新人十一月號（第十三卷第十一號）要目

□新時代の曙光……海老名彈正
□復活の生活……海老名彈正
□固有宗教研究の必要……文學博士 加藤玄智
□接神術と基督教……今泉眞幸
□米國に於ける平和運動の現狀……原口竹次郎
□我國の基督教と倫理……天野榮造
□マグダラのマリヤ……メーテルリンク
□私は生きてゐる（長詩）……新田奎一
□憲政の過去及び將來……島田三郎
□オイケンの新著に就て……額賀鹿之助
□徹底問題に就ける所感……中村長之助
□世界思想に於ける宗教の新地位……快堂生
□文部省美術展覽會合評……同人
□藝術作爲の動機と其價値……奎一
□『悲しき愛』を讀みて……白夜生
□馬可傳講議……海老名彈正
□時評 □彙報 □新刊紹介……記者

東京 新人社發行

院長診察、月、水、木、金午前、入院、診察應需
林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
（電本）八八八八（病院用）八九八八（私宅用）

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎海濱從停車場半里
電、チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後、入院、診察應需、

大正元年十一月一日發行

東京市小石川區林町四拾參番地
新人社
振替口座東京一四〇〇五